

取扱説明書

ミニ耕うん機

YK

YK400CR

YK450CR

YANMAR

製品の改造禁止

当製品が使用している電子機器の改造や、製品の使用目的以外の作業や改造はしないでください。改造や目的外の使用をした場合、重大な事故や機械の破損をまねくおそれがあります。また使用目的以外の作業や改造は保証の対象になりませんので、ご注意ください。

輸出もしくは非居住者に提供する、または海外で技術提供をする場合

当社製品および関係技術資料を輸出もしくは非居住者に提供する、または海外で技術提供をする場合、安全保障貿易管理に関する日本および関係各国の関連法規制を受ける場合があります。確認のうえ、必要な手続きを実施してください。

機体銘板とエンジン番号

機体銘板とエンジン番号には、アフターサービスをお受けになるときに必要な情報が記載されています。
機体銘板は、フレーム右側面（図 1）に貼り付けられています。
エンジン番号は、機体前方のエンジンクランクケース（図 2）に打刻されています。

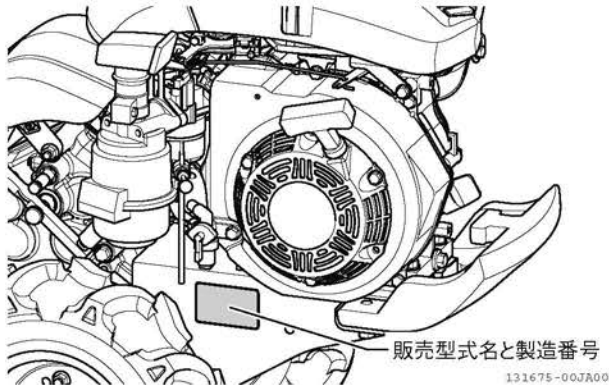


図 1 機体銘板

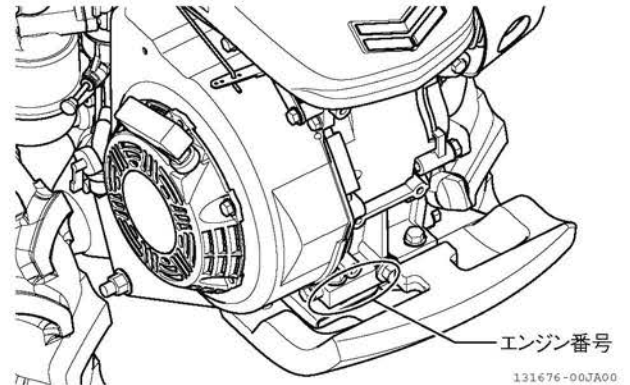


図 2 エンジン番号

販売型式名、製造番号などを記入してください

ミニ耕うん機の製造番号とエンジン番号は、アフターサービスをお受けになるときや、万一盗難の被害にあった場合などに必要となりますので、各銘板に記載されている販売型式名や製造番号などをつぎの表に記入してください。

販売型式名:	アタッチメント型式名および製造番号:
区分:	
製造番号:	
エンジン型式:	
エンジン番号:	

- ※ご購入のミニ耕うん機によっては、該当しない項目もあります。
- ※アフターサービス、保証については、55ページをご参照ください。

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、ヤンマーミニ耕うん機をお買い上げいただきありがとうございました。この取扱説明書は、ミニ耕うん機の取り扱い方法と使用上の注意事項について記載しています。

本製品をご使用いただく前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接し、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、必ずこの取扱説明書および、同梱されている「安全に作業をするために ヤンマー管理機・ミニ耕うん機」を本製品と共にお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を紛失または損傷された場合は、すみやかに当社の特販店、または JA にご注文ください。
- 安全に対する項目については、同梱されている「安全に作業をするために ヤンマー管理機・ミニ耕うん機」に記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気づきのことがございましたら、お買い上げいただいた特販店、または JA へご相談ください。
- 本書 1 ページの記入欄にミニ耕うん機の製造番号、エンジンの番号などを記入してください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書では、主に YK400CR のイラストを使用しています。
- 本書の内容には、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載漏れなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。
- 本書に記載されている部品番号は変更されることがあります。部品、アタッチメント、オプションをご注文される際は本機の販売型式名、製造番号、エンジン番号をお買い上げいただいた特販店、または JA へお伝えください。

説明記号の見かた

- ⚠ 危険** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
- ⚠ 警告** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものを示します。
- ⚠ 注意** その警告文に従わなかった場合、けがを負う可能性があるものを示します。
- 【重要】** 誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。
- 【参考】** 作業能率をよくしたり、誤った操作をしないための補足説明です。
- 本書の「左」や、「右」という記載は前進方向を見た状態での左側、右側を示します。

本製品の使用目的について

本製品は、ほ場の耕うん、うね立て、培土、除草などの管理作業用の作業機としてご使用ください。

使用目的以外の作業や改造などはしないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、重大な事故や機械の破損をまねくおそれがあります。また、保証の対象になりませんので、ご注意ください。

(詳細は、保証書をご覧ください。)

本製品の使用条件について

本製品は、ほ場の耕うん、うね立て、培土、除草などの管理作業用の作業機として設計、製造されています。

表の条件で使用するにより本来の性能を発揮します。

表 1 使用条件

温度	-5℃～40℃
高度	1500 m以下
傾斜度	11度以下

型式と仕様について

本製品には、つぎの仕様があり、取扱説明書の内容で仕様によっては、該当しない項目もあります。




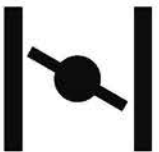
表 2 型式と仕様

型式	仕様	セル スタート	走行部			ロータリー部			
			走行段数	タイヤ サイズ	デフ	正転	一軸 正逆転	簡易 うね立て	移動尾輪
YK400CR	—	—	前進2/後進1	3.50-6	○	○	—	—	—
	ZL	—	前進2/後進1	3.50-7	○	—	○	○	○
	ZLE	○	前進2/後進1	3.50-7	○	—	○	○	○
YK450CR	ZLE	○	前進2/後進1	3.50-7	○	—	○	○	○

運転操作のシンボルマーク

ミニ耕うん機を安全に能率よく操作、作業していただくために、つぎのシンボルマークをミニ耕うん機および取扱説明書の中で使用しています。シンボルマークの意味をよく理解していただき、安全にご使用ください。

表 3 シンボルマーク

	エンジン停止		ガソリン燃料		エンジン始動
	チョーク				

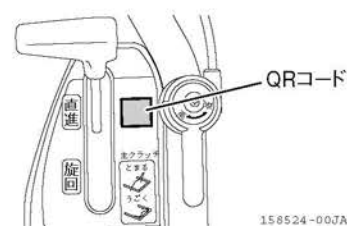
本製品の取り扱いやメンテナンスの方法などは、
ヤンマーのホームページにも掲載しておりますのでご活用ください。

<https://www.yanmar.com/jp/redirect/qr/yk-mr/>

QR コード



- ・ QR コードの読み取り方法は、各端末の販売店へご相談ください。
- ・ QR コードは、本製品にも貼り付けられています。



・このミニ耕うん機は、路上(公道)走行できません。

このミニ耕うん機は、ほ場内の作業を目的としており、小型特殊自動車の型式認定を受けておりません。ほ場まで移動される場合は、トラックなどに載せて運搬してください。

・このミニ耕うん機は、日本国内での使用を想定しています。

このミニ耕うん機は、日本国内のみでの使用を想定しており、海外に輸出したり、海外で使用することは想定しておりません。従って、当社の品質保証の適用範囲外となります。

目次

総目次

機体銘板とエンジン番号 1

販売型式名、製造番号などを記入してください..... 1

はじめに..... 2

1章 必ずお読みください 9

安全銘板..... 9

安全銘板の貼り付け位置.....9

安全銘板の手入れについて..... 10

2章 運転のしかた..... 11

各部のはたらきと使いかた..... 11

運転操作部..... 11

作業調節部..... 13

エンジン部..... 14

運転前の点検..... 15

点検のしかた..... 16

エンジンの始動と停止..... 16

始動のしかた..... 16

エンジンの停止のしかた (ZLE仕様以外).... 19

エンジンの停止のしかた (ZLE仕様)..... 19

運転操作..... 19

発進のしかた..... 20

変速のしかた..... 20

旋回のしかた..... 21

停車のしかた..... 22

3章 作業のしかた..... 23

作業前の準備..... 23

ハンドル高さの調節のしかた..... 23

ワンタッチ切り替え尾輪のセットのしかた... 24

作業について..... 26

耕うん深さの調節のしかた..... 26

ほ場での作業のしかた..... 27

4章 お手入れのしかた..... 30

作業後の手入れについて..... 30

作業後の手入れのしかた..... 30

洗浄のしかた..... 31

各部の注油箇所..... 32

点検・整備のしかた..... 34

定期点検・整備の時期について..... 34

定期点検一覧表..... 35

燃料の点検・補給・排出のしかた..... 36

オイルの点検・交換のしかた..... 37

エアクリーナーの洗浄のしかた..... 40

燃料コシ器エレメントの掃除のしかた..... 40

主クラッチレバーの点検のしかた..... 41

旋回レバーの点検のしかた..... 42

増締めするところ..... 42

耕うん爪の点検・交換のしかた..... 43

点火プラグの点検・掃除・交換のしかた..... 45

タイヤの空気圧の調整のしかた..... 46

燃料パイプ・電気配線の点検のしかた..... 46

バッテリーの長期保管時の手入れ

(ZLE仕様)..... 47

バッテリーの点検 (ZLE仕様)..... 47

不調診断のしかた..... 49

5章 保管のしかた..... 50

保管するときは..... 50

特に長期保管するときは(1カ月以上)..... 50

保管のしかた..... 50

6章 輸送のしかた..... 52

トラックへの積み・降ろしのしかた..... 52

7章 仕様..... 53

主要諸元..... 53

8章 廃棄物の処理について..... 54

廃棄をするときは..... 54

ミニ耕うん機の廃棄..... 54

廃油の処理..... 54

ホース類の処理..... 54

リチウムイオンバッテリーの処理..... 54

9章 サービスと保証について..... 55

保証書は大切に保管してください..... 55

アフターサービスをお受けになるときは..... 55

10章 索引..... 56

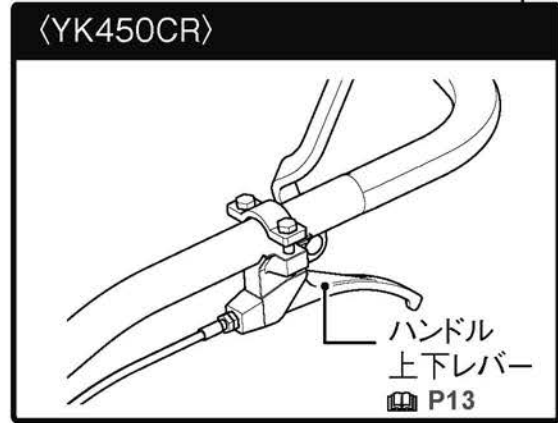
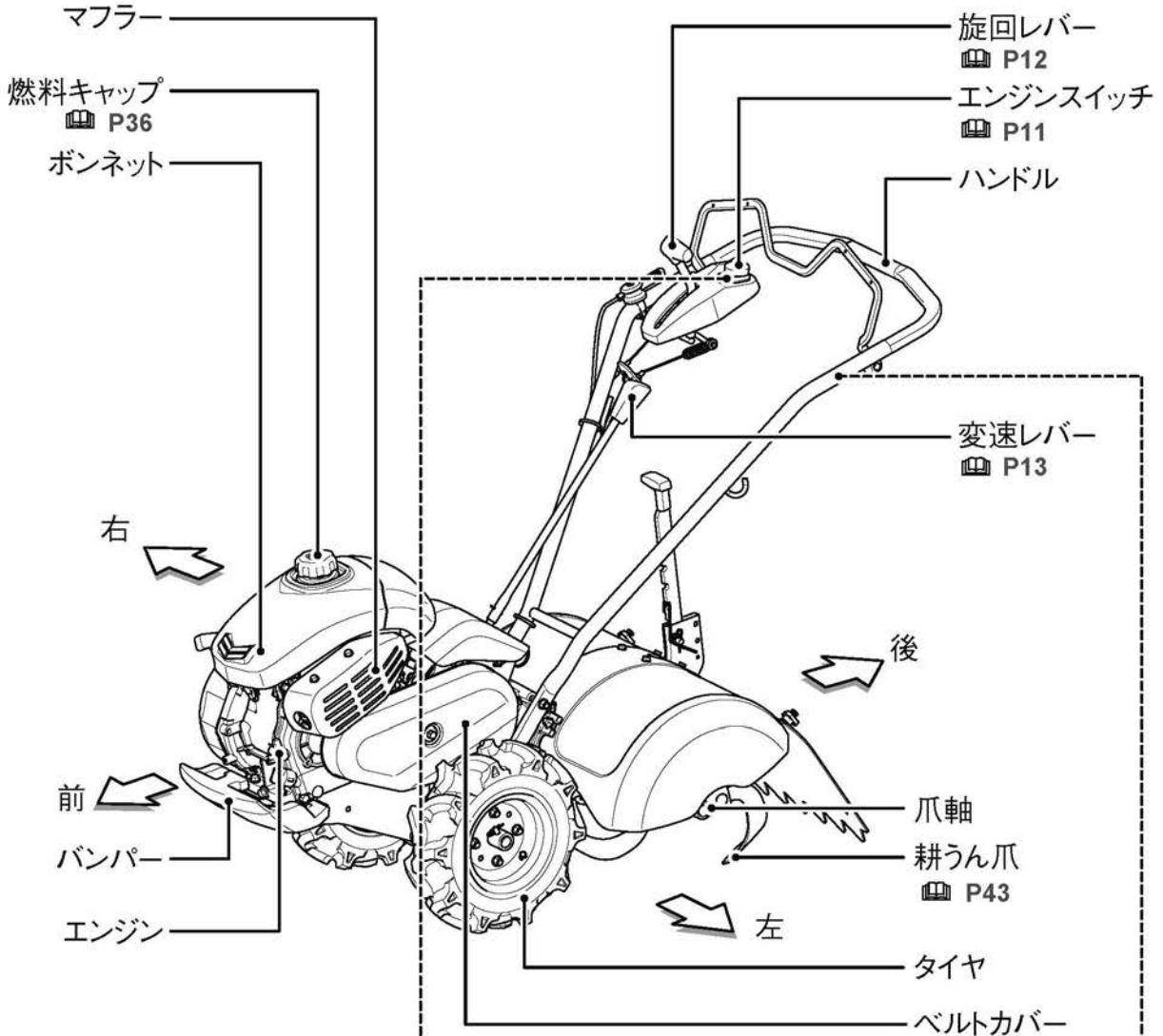
11章 部品リスト(部品早見表)..... 57

主要消耗部品..... 57

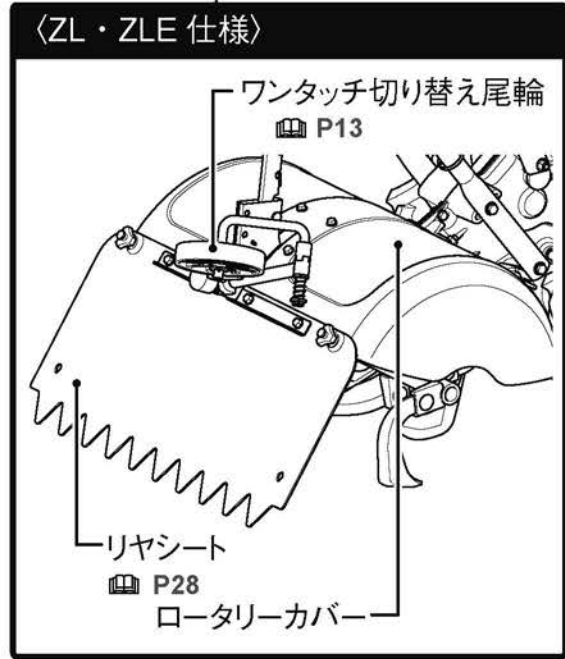
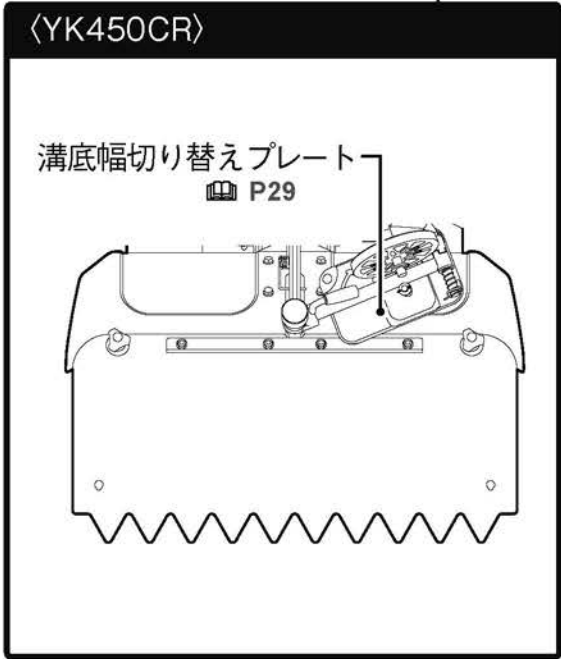
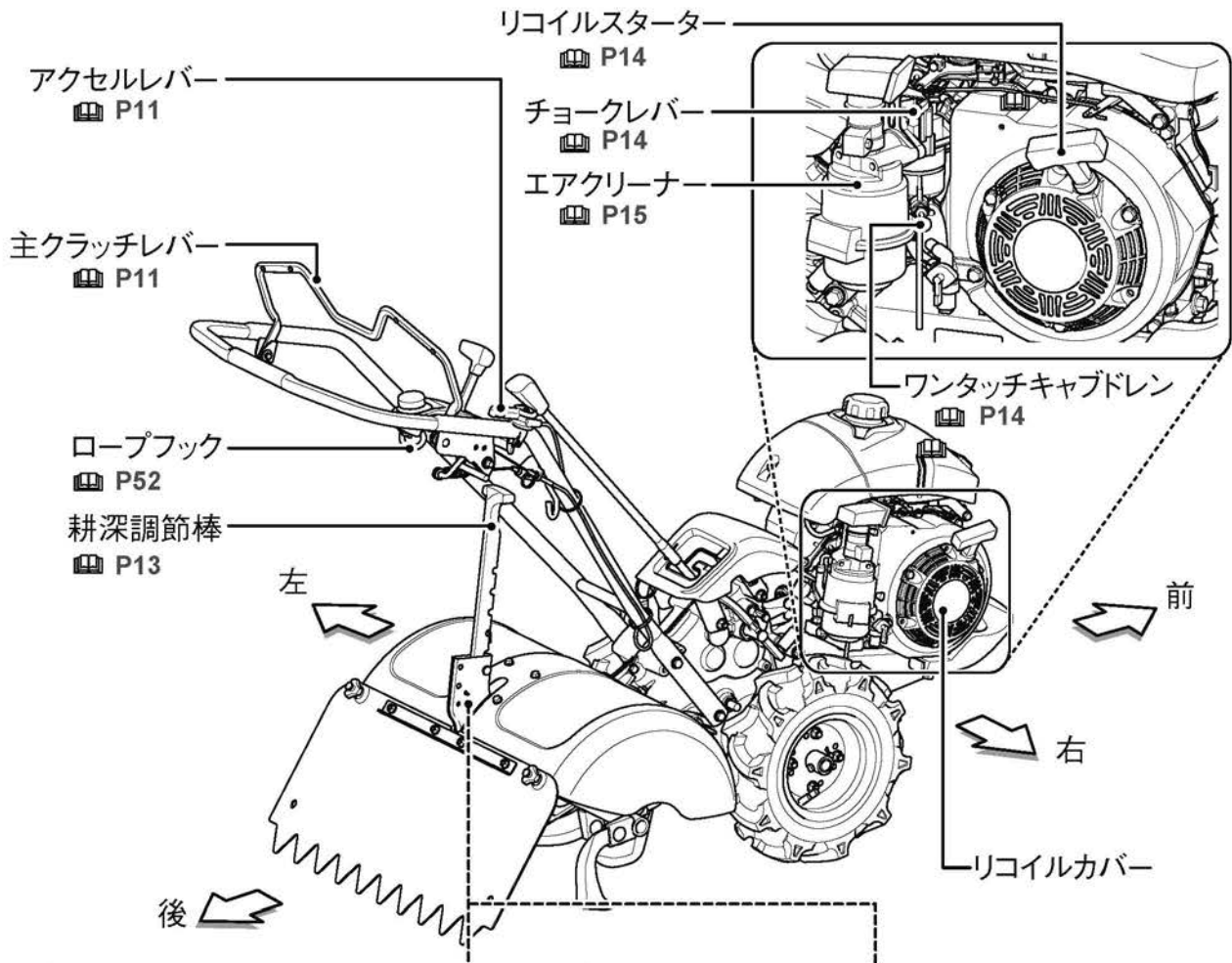
12章 用語解説..... 58

イラスト目次

外観



160980-007A



160981-00JA

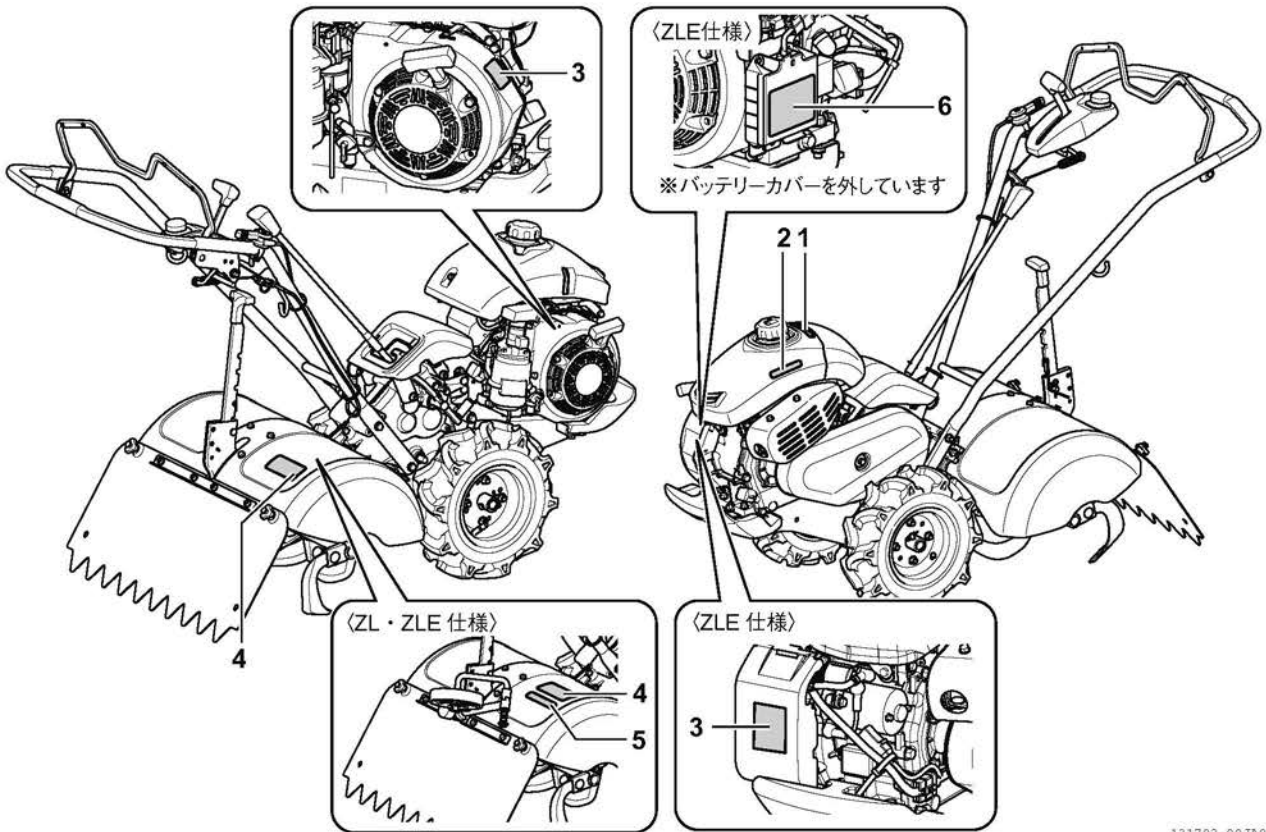
1章 必ずお読みください

安全銘板

安全銘板の貼り付け位置

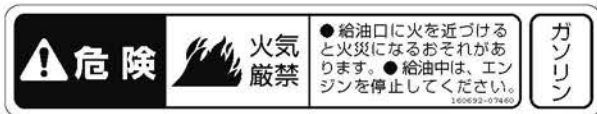
安全銘板の貼り付け位置を示したものです。

安全銘板には、安全に作業を行っていただくための事項が記載されています。必ず作業をはじめる前に読んでください。常に汚れや破損のないように保ち、もし破損、紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。

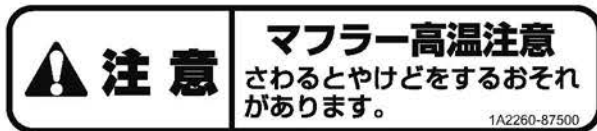


131702-007A00

1. 160692-07460 ラベル(火気厳禁)



2. 1A2260-87500 注意(マフラー高温)



3. 1A2260-87100 警告(排ガス)



1

必ずお読みください



4. 1A2740-86351 ラベル(PL)

警告		ロータリの回転部に接触するとケガをするおそれがありますので、回転部に近づかないでください。
		●後進時は後ろを確認してください。 ●障害物と機械との間にはさまれるおそれがあります。 ●機械を停止させるためにハンドルから手をはなしてください。
注意	●取扱説明書をよく読んで安全に作業してください。 ●エンジン始動時はかならず主クラッチを「切」にしてください。 ●後進時は転倒などによりケガをするおそれがあります。 ●後進時は後方に十分注意してください。	
		●点検整備時はエンジンを停止し手袋を着用してください。 ●守らないとケガをするおそれがあります。
		●ロータリの回転中は固い物があると本体が急加速(ダッシュ)するおそれがあります。 ●その時はロータリ部が宙に浮くまでハンドルを持ち上げてください。

5. 1A2740-86340 注意(正逆)

注意		●爪の向きと回転方向を間違わないように注意してください。間違えると思わぬケガをするおそれがあります。
		●機種によっては逆転がない場合があります。

6. <ZLE仕様>1A0111-00030 ラベル(注意)

危険
● 発熱、発火、破裂、液漏れの原因となるので、 ・バッテリーカバーを外して使用しないこと ・バッテリーの分解や改造しないこと ・バッテリーに強い衝撃を与えないこと ・バッテリーコードを強く引っ張らないこと ・バッテリーを外部充電しないこと ・バッテリーは指定の機器でのみ使用すること ・バッテリーを工具等でショートやスパークさせないこと ・バッテリーを火中へ投入、過熱、高温場所で使用・放置しないこと

1 必ずお読みください

安全銘板の手入れについて

- 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石けん水を付けた布でふき、やわらかい布で水分をふき取ってください。
- 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。はがれるおそれがあります。
- 安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。
安全銘板はお買い上げいただいた特販店、またはJAにご注文ください。

2章 運転のしかた

各部のはたらきと使いかた

運転操作部

ハンドル部周辺のレバー、スイッチについて説明します。

主クラッチレバー

エンジンからの動力を伝えたり、切り離したりするときに使用します。

主クラッチレバーを握ると、クラッチが入ります。

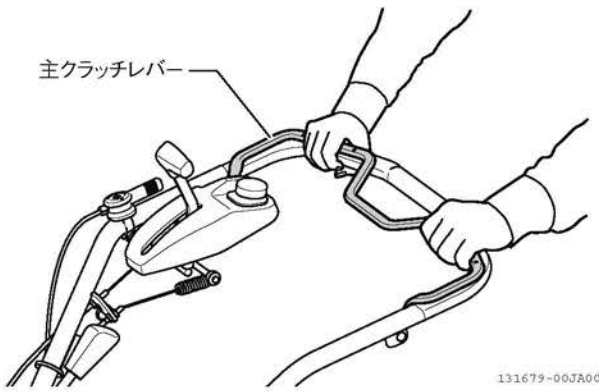


図 2-1 主クラッチレバー「入」

主クラッチレバーを放すと、クラッチが切れます。

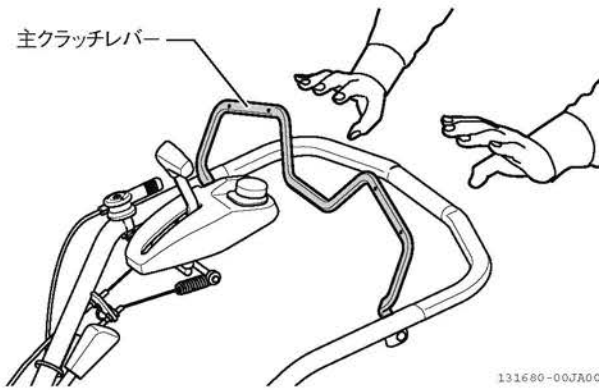


図 2-2 主クラッチレバー「切」

【参考】

緊急時には、すぐに主クラッチレバーから手を放し、走行やロータリーの回転を停止させてください。

アクセルレバー

エンジン回転を調整するときに使用します。

「低」側……エンジン回転が遅くなります。(低速)

「高」側……エンジン回転が速くなります。(高速)

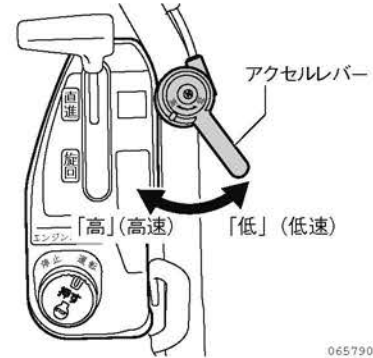


図 2-3 アクセルレバー

エンジンスイッチ (ZLE仕様以外)

エンジンを始動、停止するときに使用します。

■ エンジン始動時

エンジンスイッチは押しながら回して「運転」位置にします。「運転」位置ではエンジンスイッチが浮き上がり、エンジンを始動できる状態になります。

■ エンジン停止時

エンジン運転中、エンジンスイッチを押すとエンジンスイッチが「停止」位置に戻り、エンジンが停止します。

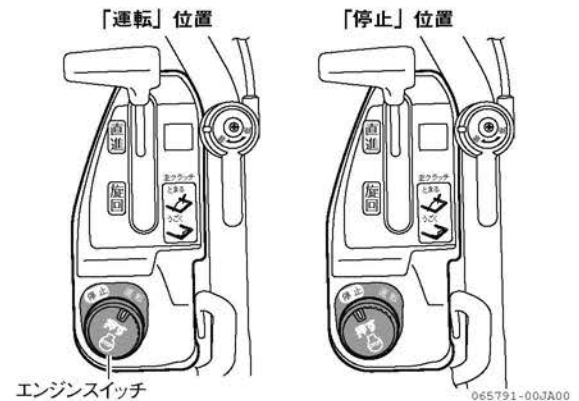


図 2-4 エンジンスイッチ

【参考】

緊急時には、エンジンスイッチを押し、エンジンを停止させてください。

**エンジンスイッチ(キースイッチ)
(ZLE仕様)**

エンジンを始動、停止するときに使用します。

■ エンジン始動時

1. キースイッチを「停止」位置から「運転」位置へ回します。
エンジンを始動できる状態になります。
2. キースイッチを「運転」位置から「始動」位置へ回すと、セルモーターが回り、エンジンが始動します。
3. エンジンが始動したら、キースイッチを「運転」位置に戻します。

■ エンジン停止時

キースイッチを「運転」位置から「停止」位置へ回すと、エンジンが停止します。

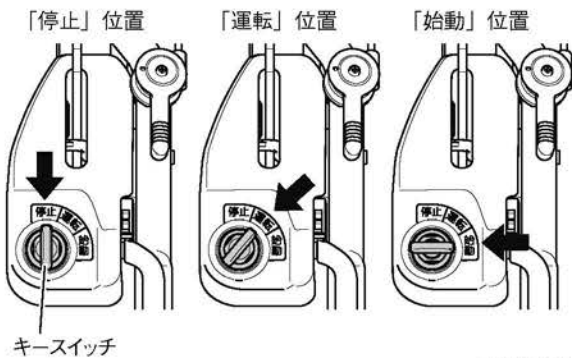


図 2-5 エンジンスイッチ (キースイッチ)

旋回レバー

タイヤのデフ・デフロックが切り替わります。
(58 ページの「12章 用語解説」を参照)

「直進」位置…デフがロックされ、直進性が増します。
「旋回」位置…左右のタイヤに回転差が生じ、旋回しやすくなります。

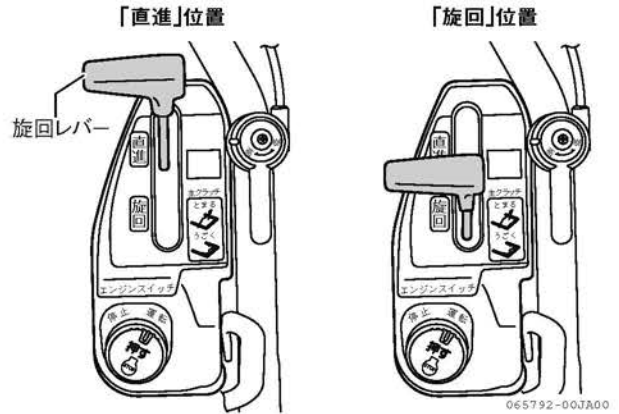


図 2-6 旋回レバー

【参考】

- 片側のタイヤ (車輪) がスリップして、走行しにくいときは、旋回レバーを「直進」位置にすると、左右のタイヤ (車輪) が同じ回転になり、けん引力が増します。
- 変速レバーが「作業」位置のときのみロータリーが回転します。
- アユミ板などの滑りやすいところでは旋回レバーを「直進」位置にしてください。
- 主クラッチレバーが「入」位置でも旋回レバーを操作することができます。

変速レバー

▲ 注意

作業時以外は、変速レバーを必ず移動変速（低速・高速・後進）にして走行してください。ロータリーの回転でけがをするおそれがあります。

走行速度を変更するときに使用します。

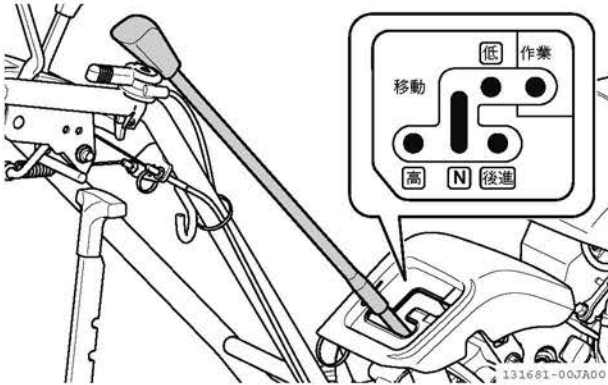


図 2-7 変速レバー

ハンドル上下レバー (YK450CR)

作業者の体格や作業の種類に合わせて、ハンドルを使いやすい高さに調整するときに使用します。4段階に調節できます。

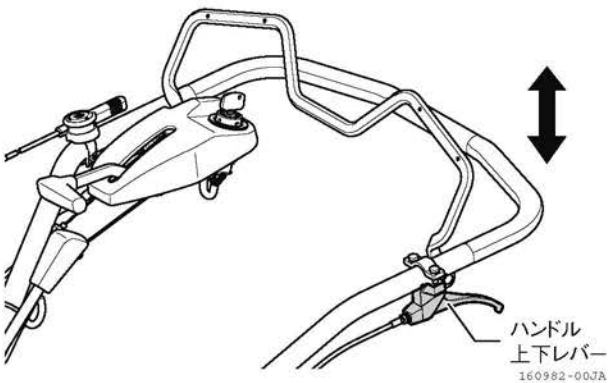


図 2-8 ワンタッチ切り替え尾輪

ハンドル上下レバーを握ったままハンドルを上下に動かし、適切な位置でレバーを放します。ハンドルがその位置で固定されます。

【参考】

耕うん作業時は、腰の高さに調節すると作業がしやすくなります。

作業調節部

ロータリー周辺の調節部について説明します。

耕深調節棒

耕うん深さを調節するときに使用します。
耕深調節棒を上げる…耕うん深さが深くなります。
耕深調節棒を下げる…耕うん深さが浅くなります。

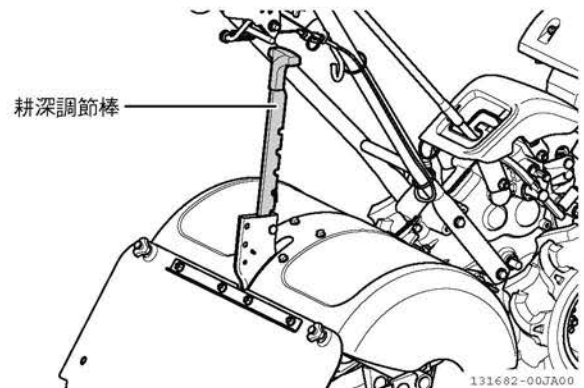


図 2-9 耕深調節棒

ワンタッチ切り替え尾輪 (ZL・ZLE仕様)

耕うん、うね立て、移動時の切り替えに使用します。
耕うん時…… 尾輪を右上にセットします。
うね立て時… 尾輪を下にセットします。
移動時……… 下にセットした状態で、先端の尾輪部を接地させます。

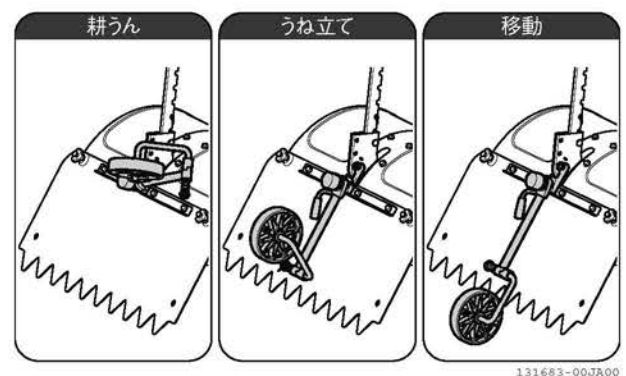


図 2-10 ワンタッチ切り替え尾輪

エンジン部

エンジン部のレバーなどについて説明します。

リコイルスターター

エンジンを始動するときに使用します。

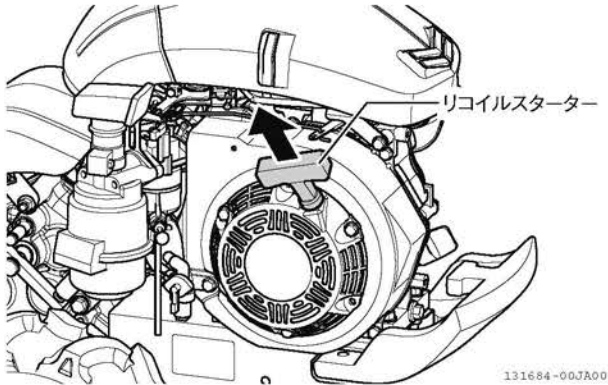


図 2-11 リコイルスターター

【重要】

リコイルスターター部の吸気口に付いたごみは、きれいに掃除してください。エンジンの出力低下や破損の原因となります。

チョークレバー

エンジンが冷えている場合、始動するときに使用します。

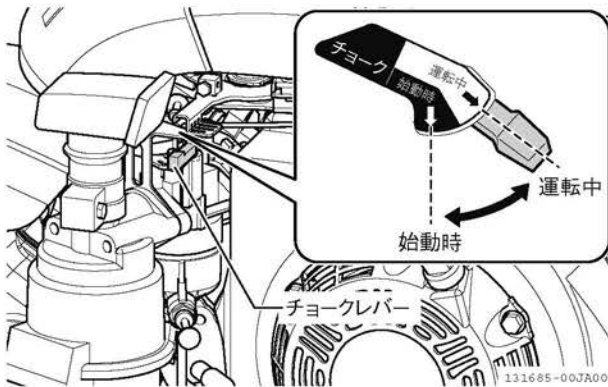


図 2-12 チョークレバー

「運転中」位置…通常の運転時、作業時の位置です。
「始動時」位置…エンジンが冷えているときの始動時の位置です。

燃料コックレバー

エンジンへの燃料供給、停止の切り替えを行うときに使用します。

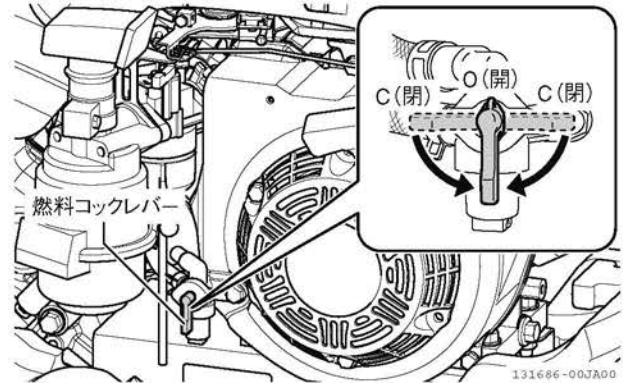


図 2-13 燃料コックレバー

「O (開)」位置…燃料がエンジンへ流れます。
「C (閉)」位置…燃料がエンジンへ流れません。
エンジン始動時、運転時は燃料コックレバーを「O (開)」位置に、エンジン停止時は「C (閉)」位置にします。

ワンタッチキャブドレン

キャブレーター内の燃料を抜くときに使用します。
(58 ページの「12章 用語解説」を参照)
キャブドレンを引くと燃料がドレンホースから流れ出ます。

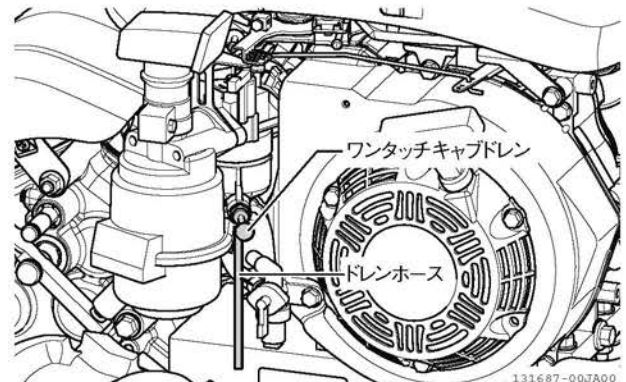


図 2-14 ワンタッチキャブドレン

エアクリナー

エンジンに供給する空気をきれいにします。
定期的に洗浄してください。

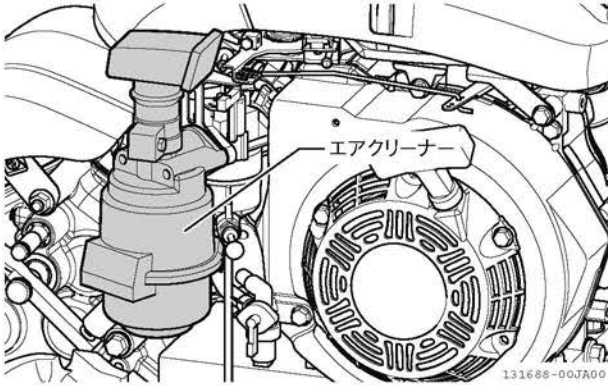


図 2-15 エアクリナー

運転前の点検

⚠ 危険

- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明をしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。
【守らないと】
燃料に引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

- 点検をするときは、交通の危険がなく、平坦で安定した場所に駐車させ、エンジンを停止してください。
- エアクリナーのエレメントは、必ず取り付けてから始動・運転をしてください。
【守らないと】
逆火により炎が噴き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 破損しているカバー類がないか、必ず作業前に確認してください。
【守らないと】
カバー類が破損した状態で使用すると、ミニ耕うん機に巻き込まれ、けがをするおそれがあります。
- 使用前には必ず点検をしてください。特にクラッチ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動することを確認してください。作動しないときは、確実に作動するように調整してください。

【重要】

このミニ耕うん機は、小型特殊自動車の認定を受けていません。公道走行はしないでください。

点検のしかた

運転・作業を行う前に、つぎの点検を行ってください。

表 2-1 点検のしかた

点検箇所	参照ページ
各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか。	42
燃料は入っていますか。 燃料漏れ、燃料パイプの損傷はありませんか。	36
規定量のエンジンオイルは入っていますか。 エンジンオイルの汚れ、油漏れはありませんか。	37
規定量の走行ミッションオイルは入っていますか。 走行ミッションオイルの油漏れはありませんか。	39
エアクリーナーの汚れはありませんか。	40
マフラーなどの過熱部分のほこりやごみはありませんか。	—
配線の被覆のはがれや接続部のゆるみはありませんか。	—
各操作レバーの作動状態は正常ですか。	11~13、 41
エンジンスイッチを「停止」位置にして、エンジンが停止しますか。(ZLE仕様以外)	11
キースイッチを「停止」位置にして、エンジンが停止しますか。(ZLE仕様)	12

エンジンの始動と停止

始動のしかた

⚠ 警 告

- エンジンの始動および運転は、閉めきった屋内で行わないでください。やむを得ず屋内で始動、運転する場合は、十分に換気をしてください。
- エンジンを始動する前に、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。

エンジン始動前の確認・準備

1. 燃料コックレバーを「O (開)」位置にします。
(図 2-16)

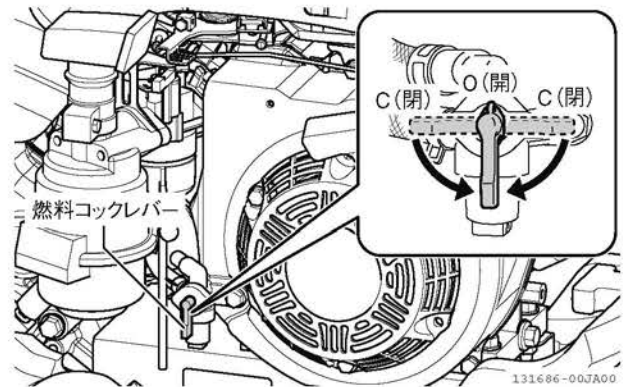


図 2-16 燃料コックレバー

2. 変速レバーを「N (中立)」位置にします。
(図 2-17)

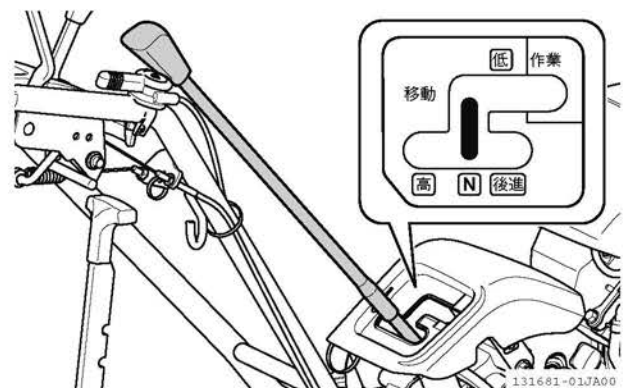


図 2-17 変速レバー

3. アクセルレバーを「始動」位置にします。
(図 2-18)

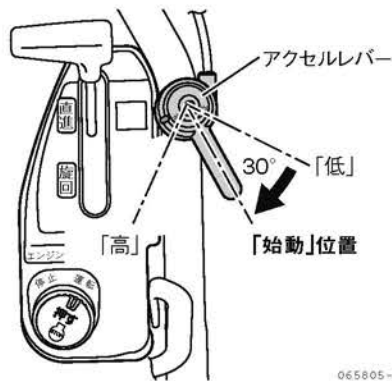


図 2-18 アクセルレバー

4. チョークレバーを「始動時」位置にします。
(エンジンが冷えている場合のみ) (図 2-19)

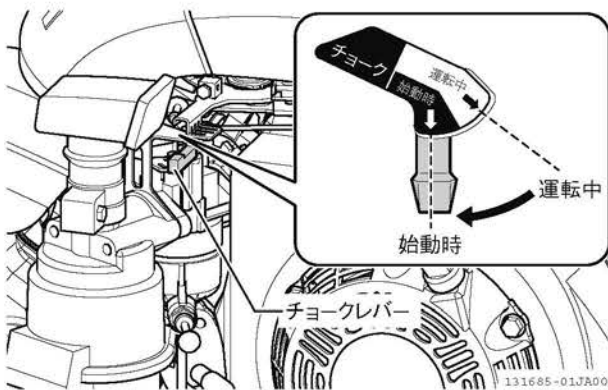


図 2-19 チョークレバー

【重要】

- エンジン始動後は、チョークレバーを確実に「運転中」位置に戻してください。
- エンジン停止後すぐに始動するときは、「運転中」位置にしてください。
守らないと、エンジンに不具合が生じる場合があります。

エンジン始動操作のしかた (ZLE仕様以外)

1. エンジンスイッチを「運転」位置にします。
2. リコイルスターターを引っ張ります。(図 2-20)
エンジンが始動したら、リコイルスターターをゆっくりと元に戻します。

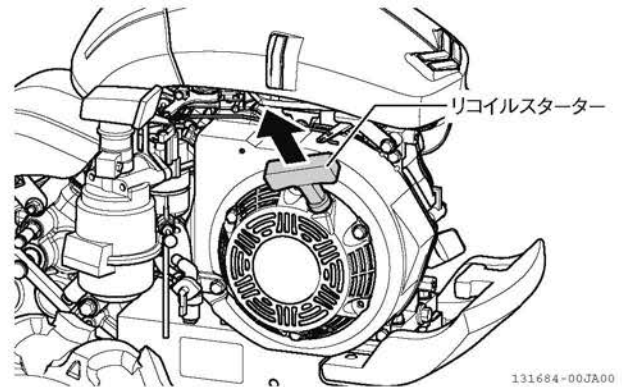


図 2-20 リコイルスターター

3. エンジンの回転状態を見ながらチョークレバーを徐々に「運転中」位置にします。(図 2-21)

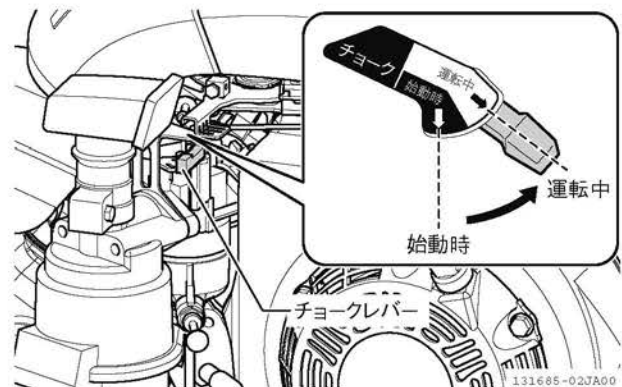


図 2-21 チョークレバー

【重要】

- リコイルスターターを何回も引っ張り続けると、燃料の吸いすぎとなり、始動が困難になります。そのときは、少し時間をおいてから始動してください。
- 運転中は、リコイルスターターを引っ張らないでください。

【参考】

リコイルスターターを2~3回引っ張ってもエンジンが始動しないときは、チョークレバーを「運転中」位置にして、再度リコイルスターターを引っ張りませう。

4. アクセルレバーを「低」側にします。エンジン回転が下がります。
5. 約 5 分間、エンジンをかけたままにしておきます。(暖機運転)

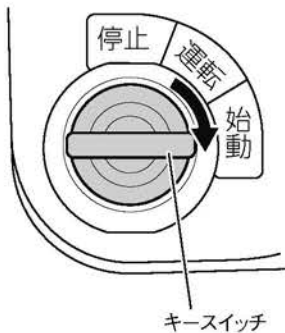
【重要】

冬季など、外気温が低いときは、アイドリング時のエンジン回転が規定よりも低くなり、ハンチング(回転ムラ)を起こす場合があります。

そのような場合は、アクセルレバーを「高」(高速)側と「低」(低速)側の中間位置にして、暖機運転を行ってください。

エンジン始動操作のしかた(ZLE仕様)

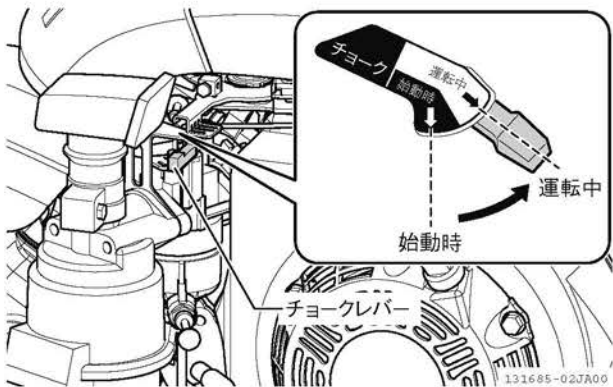
1. キースイッチを「運転」位置にします。
2. キースイッチを「運転」位置から、「始動」位置へ回します。エンジンが始動後、キースイッチから手を離すと「運転」位置に戻ります。



119500-00JA00

図 2-22 キースイッチ

3. エンジンの回転状態を見ながらチョークレバーを徐々に「運転中」位置にします。



131685-02JA00

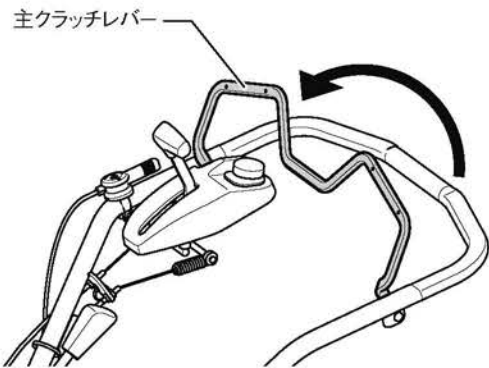
図 2-23 チョークレバー

【重要】

- セルモーターを 5 秒間回してもエンジンが始動しないときは10秒以上休んでから再始動してください。
- セルモーターを5秒以上回し続けたり、また短い休止時間で断続的に回すとバッテリーが発熱して内部の保護機能が作動しますのでおやめください。
- 保護機能が作動したバッテリーパックは充放電ができなくなるため交換が必要です。
- 本機のバッテリーが充電されていないとキースイッチでエンジン始動はできません。(48 ページの「バッテリーの充電方法」を参照)
- 低温時はバッテリーの出力特性が弱くなるため、始動できない場合があります。その際は、リコイルスターターで始動してください。
- 運転中はキースイッチを「始動」位置にしないでください。火災やエンジン破損の原因につながることがあります。

【参考】

- 主クラッチレバーが「入」(握る)の状態ではキースイッチによるエンジン始動はできません。



131689-00JA00

図 2-24 主クラッチレバー

- バッテリーが完全に放電し、セルスタータで始動できない場合はリコイルスターターで始動してください。(エンジンを始動させると約1分でセルスタータ1回分の充電ができます。)(48 ページの「バッテリーの充電方法」を参照)
- セルモーターを2~3回回してもエンジンが始動しないときはチョークレバーを「運転中」位置にして、再度セルモーターを回します。

4. アクセルレバーを「低」側にします。エンジン回転が下がります。
5. 約 5 分間、エンジンをかけたままにしておきます。(暖機運転)

【重要】

冬季など、外気温が低いときは、アイドル時のエンジン回転が規定よりも低くなり、ハンチング(回転ムラ)を起こす場合があります。

そのような場合は、アクセルレバーを「高」(高速)側と「低」(低速)側の中間位置にして、暖機運転を行ってください。

エンジンの停止のしかた(ZLE仕様以外)

1. アクセルレバーを「低」側にします。
2. エンジンスイッチを押して、「停止」位置にします。エンジンが停止します。
3. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。

エンジンの停止のしかた(ZLE仕様)

1. アクセルレバーを「低」側にします。
2. キースイッチを「運転」位置から「停止」位置にします。エンジンが停止します。
3. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。

運転操作

ミニ耕うん機の発進から停車までの操作方法を説明します。

▲ 警告

- 移動時は、変速レバーを「低 (低速)」、「高 (高速)」、「N (中立)」、「後進」のいずれかの位置にして、ロータリーの爪を回転させずに走行してください。
- ミニ耕うん機の上に乗ったり、物を載せたりしないでください。
- 坂道をやむを得ず走行するときは、転倒やスリップに注意し、最低速度で移動してください。このとき、変速レバーを「N (中立)」位置にしたまま走行しないでください。また、旋回レバーを「旋回」位置にせず、方向を変えるときは、ハンドルを振って行ってください。
- 溝のある農道や両側が傾斜している農道では、路肩に十分注意してください。
- 坂道や凹凸、カーブの多い場所は低速で移動してください。
- 後進するときは、アクセルレバーを「低」側にし、周囲に十分注意してください。

▲ 注意

溝やあぜを横断したり、軟弱な場所を通るときは、エンジン回転を低速にしてください。

発進のしかた

1. 変速レバーを「低（低速）」、「高（高速）」、「後進」のいずれかの位置にします。（図 2-25）

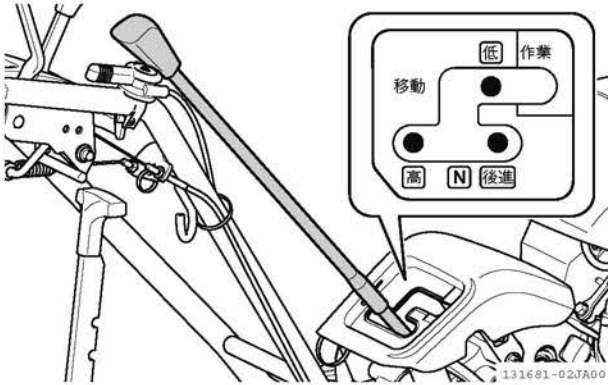


図 2-25 変速レバー

2. アクセルレバーでエンジン回転を調整します。
3. 主クラッチレバーを握ります。
クラッチがつながり、ミニ耕うん機が動き出します。

【参考】

主クラッチレバーから手を放すとクラッチが切れ、ミニ耕うん機は停止します。危険を感じたら、主クラッチレバーから手を放してください。

変速のしかた

▲ 注意

変速をするときは、必ず主クラッチレバーを「切」位置にして、ミニ耕うん機が停止してから行ってください。主クラッチレバーが「入」位置のまま変速すると、思わぬ事故やけがをするおそれがあります。

1. 主クラッチレバーを放します。
クラッチが切れ、ミニ耕うん機が停止します。
2. 変速レバーを希望の変速位置に入れます。
（図 2-26）
3. 主クラッチレバーを握ります。
クラッチがつながり、ミニ耕うん機が再発進します。

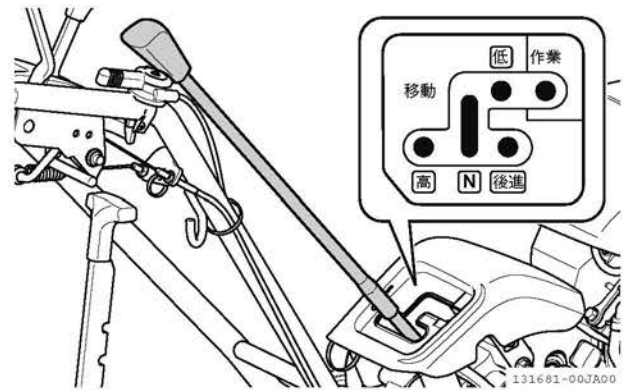


図 2-26 変速レバー

表 2-2 変速段と走行速度

	「移動」	「作業」
「低」	移動 トラックへ積み込むとき	耕うん うね立て
「高」	移動	—
「後進」	移動 トラックから降ろすとき	—

【参考】

変速レバーが「低（低速）」、「高（高速）」、「後進」位置では、主クラッチ「入」位置でもロータリーは回転しません。

旋回のしかた

▲ 注意

- 坂道では、主クラッチレバーを「切」位置にしないでください。
また、変速レバーを「N (中立)」位置にしないでください。
- 旋回するときは、ハンドルを持ち上げて旋回してください。
【守らないと】
ハンドルを持ち上げずに旋回すると、思わぬけがをするおそれがあります。

1. 旋回レバーを「旋回」位置にします。(図 2-27)
(デフが解除されます。)



図 2-27 旋回レバー (旋回)

2. アクセルレバーを「低」側にします。

3. ハンドルを持ち上げて旋回します。(図 2-28)

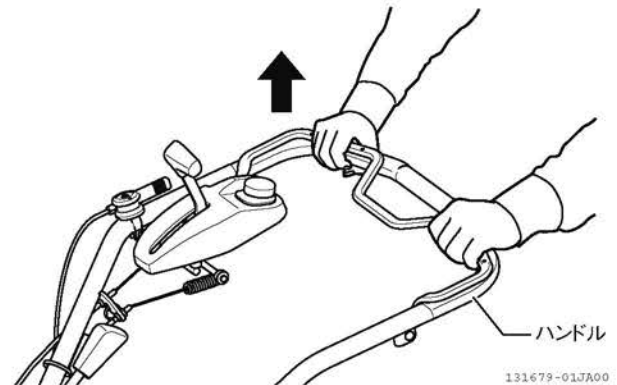


図 2-28 ハンドル (旋回)

【重要】

旋回時には変速レバーを「作業」位置以外にして、爪が回らない状態で行ってください。

【参考】

〈YK450CRの場合〉

作業中に、より旋回しやすくするには、いったんハンドル上下レバーでハンドルを下げた状態で行います。このとき、主クラッチレバーから手を放し、ミニ耕うん機を停止してから行ってください。

4. 旋回後は、旋回レバーを「直進」位置にします。
(図 2-29)



図 2-29 旋回レバー (直進)

停車のしかた

▲ 注意

平坦で安定した場所に停車し、エンジンを止めてください。

【守らないと】

ミニ耕うん機が動き出し、けがをするおそれがあります。

1. 主クラッチレバーを放します。
クラッチが切れ、ミニ耕うん機が停止します。
(図 2-30)

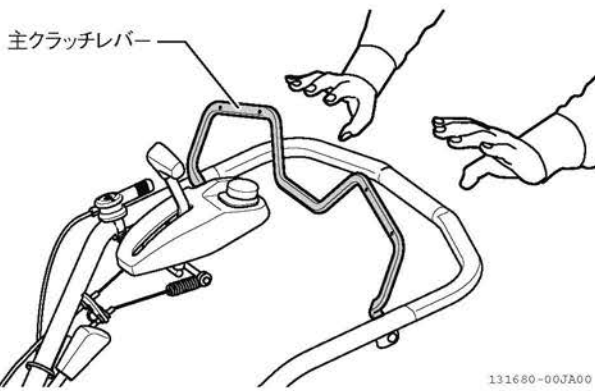


図 2-30 主クラッチレバー「切」

2. アクセルレバーを「低」側にします。エンジン回転が下がります。(図 2-31)

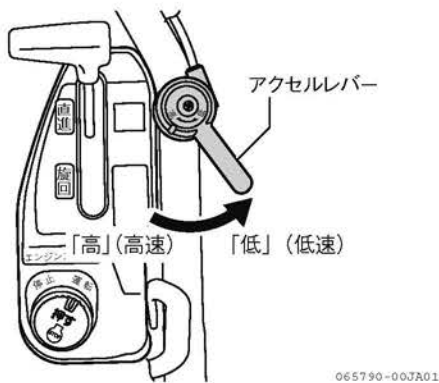


図 2-31 アクセルレバー

3. 変速レバーを「N (中立)」位置にします。

4. 〈ZLE仕様以外〉

エンジンスイッチを押して、「停止」位置にします。エンジンが停止します。(図 2-32)

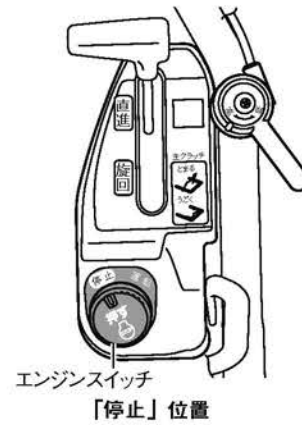


図 2-32 エンジンスイッチ (停止)

- 〈ZLE仕様〉

キースイッチを「運転」位置から「停止」位置にします。エンジンが停止します。(図 2-33)



図 2-33 キースイッチ (停止)

5. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。
(図 2-34)

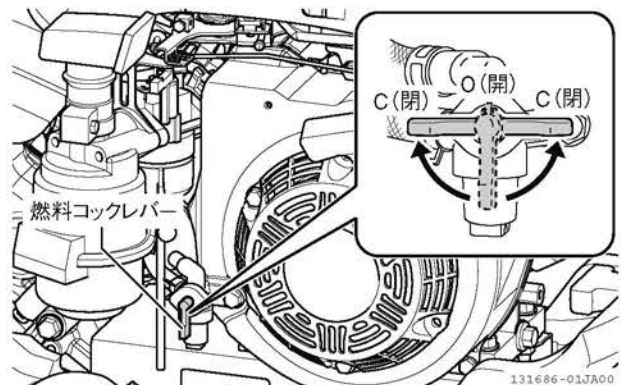


図 2-34 燃料コックレバー

3章 作業のしかた

作業前の準備

ハンドル高さの調節のしかた

⚠ 警告

ハンドルの高さを調節するときは、主クラッチレバーから手を放して、ミニ耕うん機を停止してから行ってください。

【守らないと】

ロータリーが回転したときに、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

ハンドルの高さを調節するときは、ミニ耕うん機のロータリー側を接地させた状態で行ってください。

【守らないと】

思わぬけがをするおそれがあります。

YK400CRの場合

ハンドル高さは、作業者の体格、作業の種類に合わせて、3段階に調節できます。

下側のボルトをゆるめ、上側のボルトを抜いて差し替えることで、体格や作業の種類に合わせて調節します。(図 3-1)

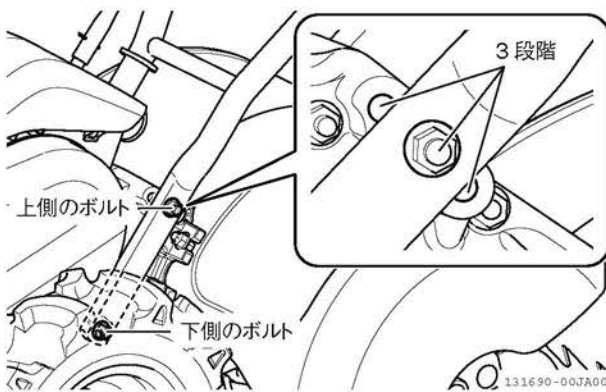


図 3-1

YK450CRの場合

ハンドル高さは、作業者の体格、作業の種類に合わせて、4段階に調節できます。

1. ハンドル上下レバーを握ったままハンドルを上下に動かし、適切な位置にします。(図 3-2)

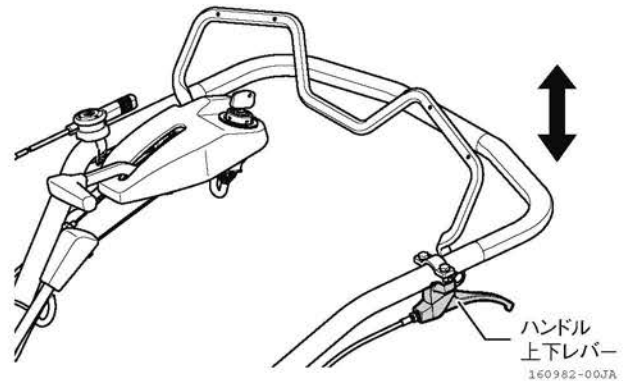


図 3-2 ハンドル上下レバー

2. ハンドル上下レバーを放すと、その位置でハンドルが固定されます。このとき、ハンドルが固定されていることを確認してください。

ワンタッチ切り替え尾輪のセットのしかた

尾輪の位置は作業（耕うん、うね立て、移動）に応じて変更します。

耕うん作業の場合

耕うん作業をするときは、セットレバーを手前に引き、尾輪を右上にセットします。（図 3-3、図 3-4）

■ YK400CR,ZL・ZLE仕様

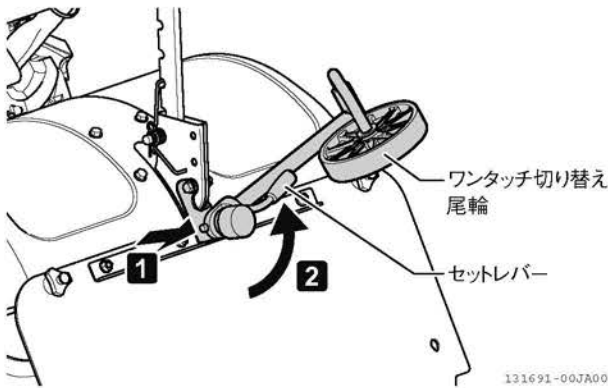


図 3-3 尾輪（耕うん作業）

■ YK450CR

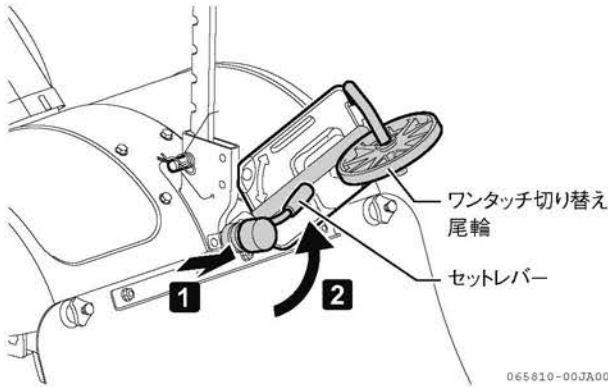


図 3-4 尾輪（耕うん作業）

うね立て作業の場合

うね立て作業をするときは、セットレバーを手前に引き、尾輪を下にセットします。（図 3-5、図 3-6）

■ YK400CR,ZL・ZLE仕様

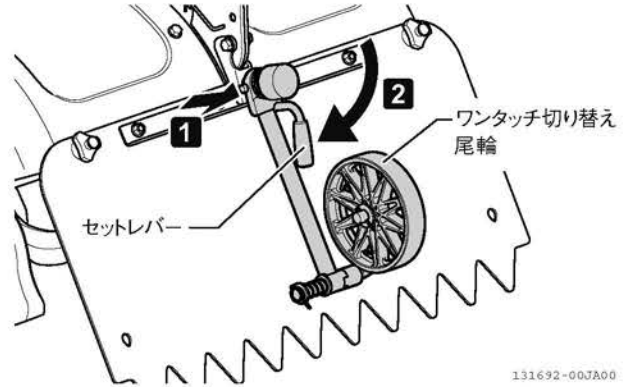


図 3-5 尾輪（うね立て作業）

■ YK450CR

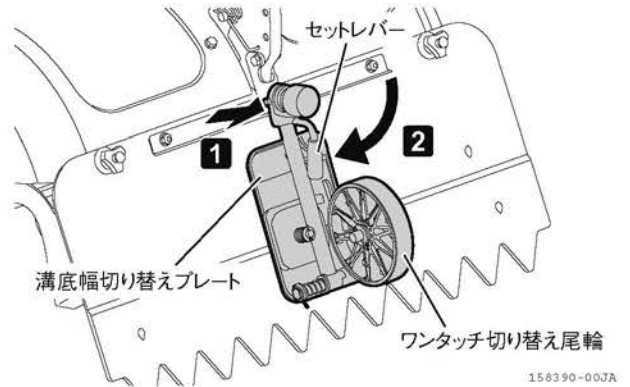


図 3-6 尾輪（うね立て作業）

【参考】

溝底幅切り替えプレートの位置は、用途に合わせて溝幅を切り替えるときに変更します。

詳しくは、29ページを参照してください。

移動の場合

▲ 注意

- 旋回するときは、ハンドルを持ち上げて旋回してください。ハンドルを持ち上げずに旋回すると、思わぬけがをするおそれがあります。
- 接地させた尾輪を元に戻すときは、ハンドル端部を手で支えながら行ってください。
【守らないと】
思わぬけがをするおそれがあります。

■ YK400CR,標準仕様

移動するときは、ハンドルを持ち上げて爪が接地しないようにして移動します。

■ YK400CR,標準仕様以外

移動するときは、尾輪を接地させます。(図 3-10)
爪が接地しないため、ハンドルを持ち上げずに移動することができます。

1. セットレバーを手前に引き、尾輪を下にセットします。(図 3-7, 図 3-8)

〈YK400CR,ZL・ZLE仕様〉

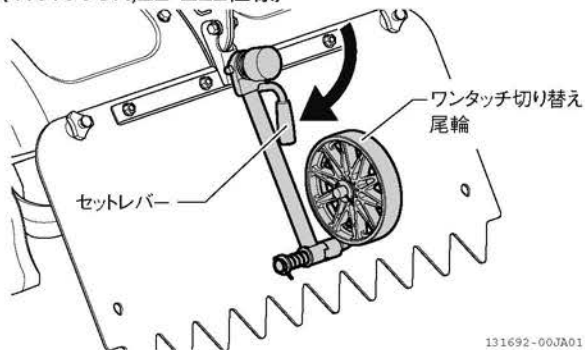


図 3-7 尾輪 (移動1)

〈YK450CR〉

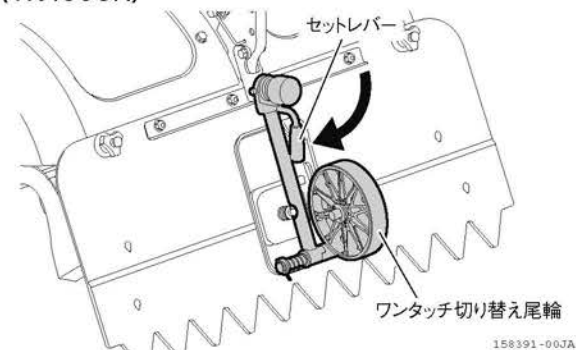


図 3-8 尾輪 (移動1)

2. 尾輪を右側に引き、下側にロックを外した状態にします。(図 3-9)

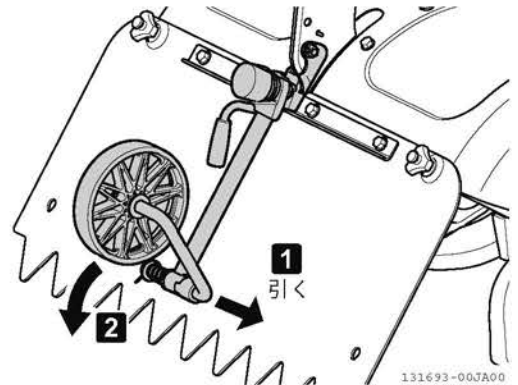


図 3-9 尾輪 (移動2)

3. ハンドルを持ち上げます。
尾輪が接地します。このとき、尾輪がロックされていることを確認します。(図 3-10)

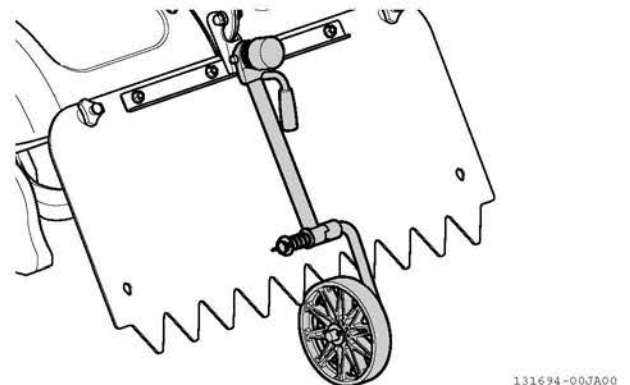


図 3-10 尾輪 (移動3)

【重要】

耕深調節棒は上げて移動してください。

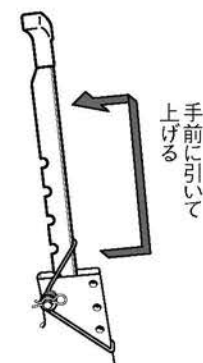


図 3-11 耕深調節棒 (上)

作業について

⚠ 警告

- ロータリーの下にもぐったり、足を入れないでください。
【守らないと】
ロータリーが動いたときに傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ハウス内で作業をするときは、排ガスが充満しないように、十分に換気を行ってください。
- 作業時以外は、ロータリーの回転を止めてください。特に、作業中に旋回や後進をするときは、必ずロータリーの回転が止まっていることを確認してください。
- マフラーに付着した枯れ草やわらは取り除いてください。
【守らないと】
火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 地面が固かったり、石をかんだり、ロータリーを急に地面に降ろすと、回転する爪の勢いでミニ耕うん機が思わぬ方向に飛び出すことがあります（ダッシュ現象）。常に主クラッチレバーを「切」位置にできるような姿勢で作業をしてください。
- 後進するときは低速で移動し、転倒しないように足元に十分注意してください。後方に障害物がないことを確認して、障害物とミニ耕うん機の間にはさまれないようにしてください。

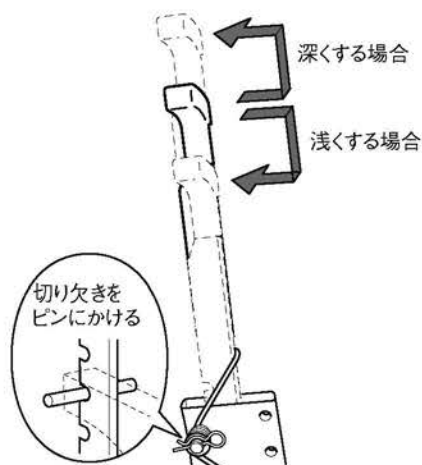
耕うん深さの調節のしかた

耕うん深さの調節は、耕深調節棒を上下して行います。

1. ミニ耕うん機を停止させます。
2. 耕深調節棒を手前（ミニ耕うん機後方）に引きます。耕深調節棒からピンが外れます。
3. 希望の耕深位置になるように耕深調節棒を上下に調節します。

耕深調節棒を「上げる」…耕うん深さが深くなります。（図 3-12）

耕深調節棒を「下げる」…耕うん深さが浅くなります。（図 3-12）



065814-00JA00

図 3-12 耕深調節棒

【参考】

- 耕深調節棒がスムーズに上下しないときは、前後に動かしながら調節してください。
- 耕深調節棒の操作が重くなったときは、つぎの操作をしてください。
 - 1) エンジンを停止します。
 - 2) ロータリーカバー内の耕深調節棒部に詰まった泥や草などを取り除きます。
 - 3) 耕深調節棒に注油します。

【重要】

草地で作業すると、草が爪に巻き付き、耕うん深さが確保できなくなります。その場合は、エンジンを停止し、手袋を着用して草を取り除いてください。

ほ場での作業のしかた

耕うん作業

耕うん作業は、土の中に空気や肥料を取り込み、植物の根が張りやすい環境を作る大切な作業です。ミニ耕うん機を使うことで、より深く耕うんでき、植物の生育しやすい環境を手軽に短時間で作ることができます。

【重要】

リヤシートが接地した状態で後進すると、リヤシートが爪に巻き込まれるおそれがあります。後進するときは、ハンドルを持ち上げてください。

リヤシートが巻き込まれたまま耕うん作業をしないでください。エンジンを停止し、巻き込まれたリヤシートを元の状態に戻してください。(図 3-13)

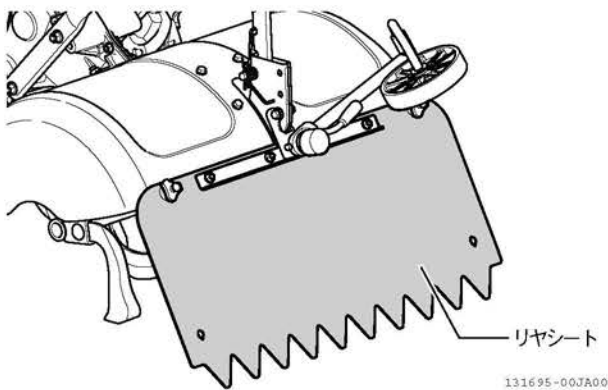


図 3-13 リヤシート

1. 〈ZL・ZLE仕様〉

ワンタッチ切り替え尾輪を右上にセットします。(図 3-14)

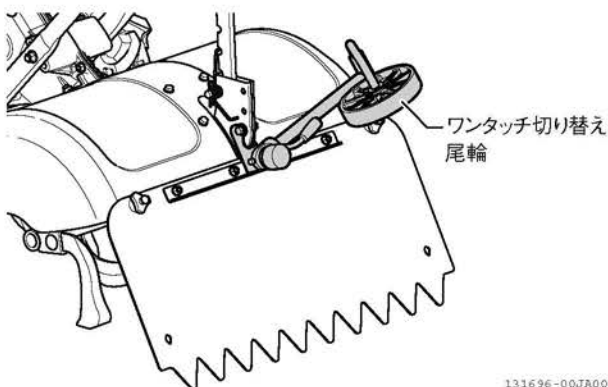


図 3-14 尾輪 (耕うん作業)

2. ミニ耕うん機を耕す場所に移動させ、変速レバーを「作業」位置にします。(図 3-15)

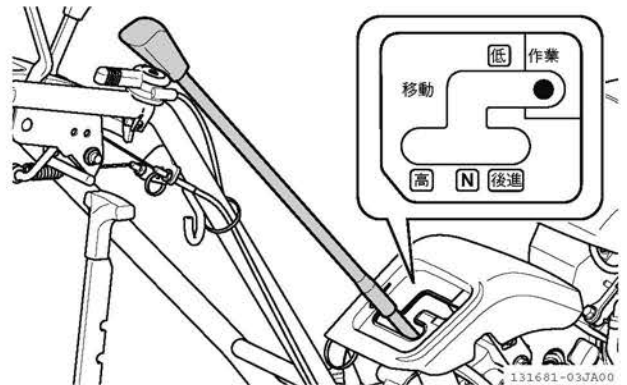


図 3-15 変速レバー

3. 耕深調節棒を上下させ、耕うん深さを調節します。

【参考】

耕深調節棒の調節のしかたは、26 ページの「耕うん深さの調節のしかた」を参照してください。

4. 旋回レバーを「直進」位置にします。

5. アクセルレバーを「高」側にします。

6. 主クラッチレバーを握ります。ミニ耕うん機が前進し、耕うん作業ができます。

【参考】

硬いほ場では、ミニ耕うん機が前に飛び出す(ダッシュ現象)ことがあります。このような場合は、耕深調節棒を下げて作業をしてください。(図 3-16)

耕深調節棒は「下」に

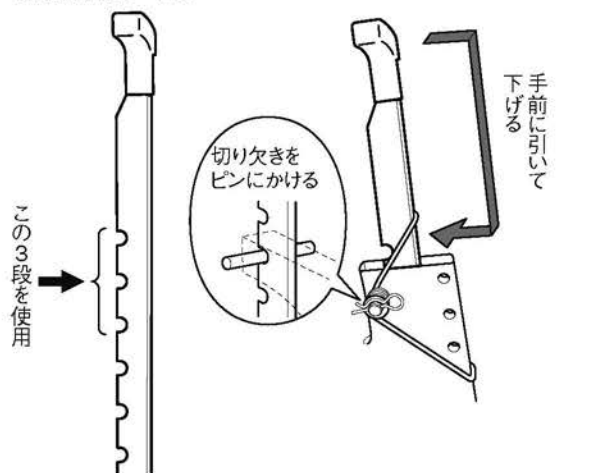


図 3-16 耕深調節棒 (下)

うね立て作業

うね立て作業の目的は、耕うんした土壌を盛り上げて畑にうねを作ることにより、通気性・排水性を高めることです。

ミニ耕うん機を使うことで、うね立てを短時間できれいに行うことができます。

【参考】

- うね立て作業前に十分に耕うん作業をして、表面を平らにしてください。
- きれいなうねを立てるために、うね立て作業前にしっかりと均一な深さで耕うん作業をしてください。
- 耕うん深さを均一にしないと、安定したうねが作れません。

「ワンタッチ切り替え尾輪」と「リヤシート」を使用して、うね立て作業ができます。必ず、耕うん後のほ場で作業をしてください。

1. 尾輪を「耕うん作業」位置から「うね立て作業」位置にします。(図 3-17)

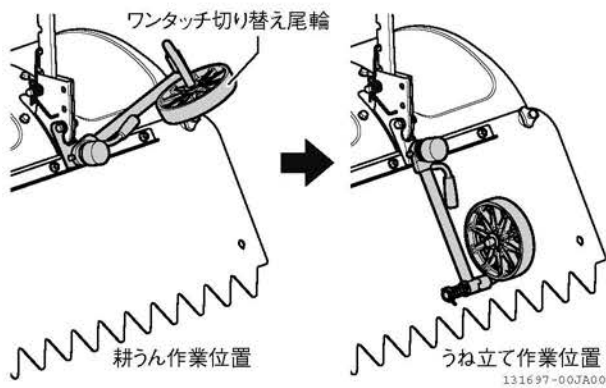


図 3-17 耕うん・うね立て

2. 変速レバーを「作業」位置にします。
3. 耕深調節棒を上下させ、溝深さを調節します。
4. アクセルレバーを「高」側にします。
5. 主クラッチレバーを握って前進します。
6. ミニ耕うん機が前進すると、溝ができます。
7. 往復すると、うねが立ちます。(図 3-18)



図 3-18

【参考】

- リヤシートを使用して、用途に合わせて、うねの角度(大きい・小さい)を調節することができます。ロータリーカバーの端のノブからリヤシートを外すと、角度の立ったうねができます。(図 3-19、図 3-20)
外したノブはなくさないように保管してください。

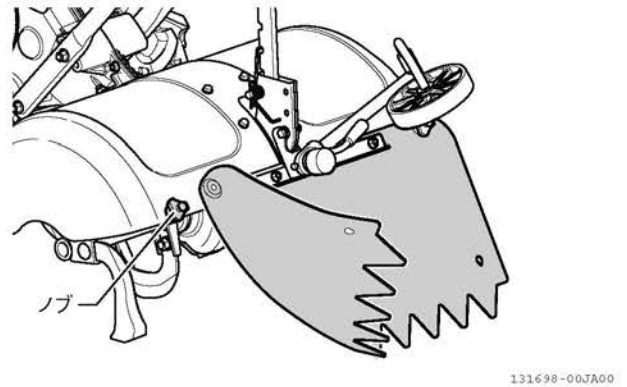


図 3-19 うね立て (リヤシート)

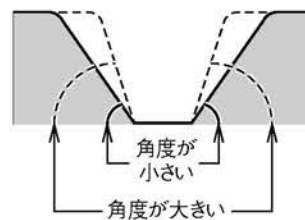


図 3-20

● 〈YK450CRの場合〉

溝底幅切り替えプレートを使用して、用途に合わせて溝底幅（広い・狭い）を調節することができます。

溝底幅切り替えプレートの丸い凹みを握り、前進方向に少し押しながら切り替えます。

〈ほ場を有効に使う場合〉

溝底幅切り替えプレートを縦にします。溝底幅が狭くなります。（図 3-21、図 3-23）

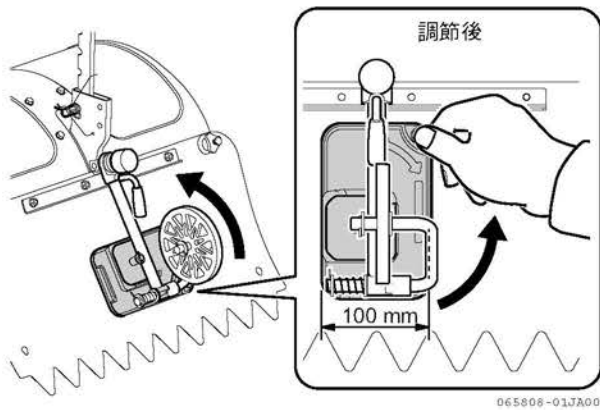


図 3-21 うね立て（溝底幅切り替えプレート縦）

〈足元に余裕が欲しい場合〉

溝底幅切り替えプレートを横にします。溝底幅が広がります。（図 3-22、図 3-23）

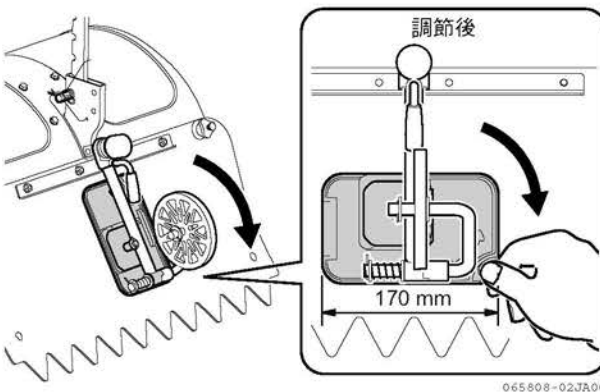


図 3-22 うね立て（溝底幅切り替えプレート横）

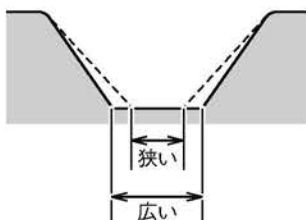


図 3-23

4章 お手入れのしかた

作業後の手入れについて

作業後の手入れのしかた

▲ 注意

- 爪の手入れ・洗浄は、必ずエンジンを停止し、手袋を着用して行ってください。
【守らないと】
けがをするおそれがあります。
- リコイルスターター部の吸気口は、エンジンの冷却風を吸い込むところです。きれいに掃除しないと、エンジンが過熱しやけどをするおそれがあります。

作業後はその日のうちに水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、各回転・摺動部に適量注油してください。

爪や爪軸、ロータリーカバー内に付着した土は、きれいに洗い取ってください。

また、爪軸に草などが巻き付いていたら、取り除いてください。(図 4-1)

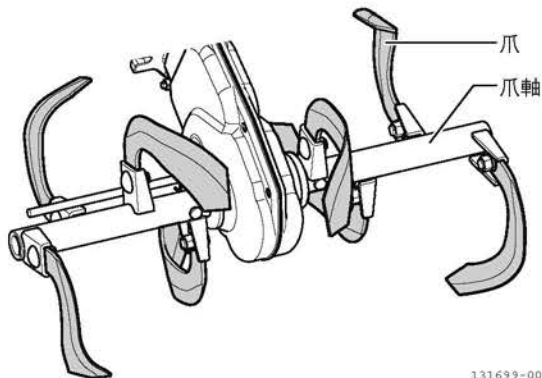


図 4-1 爪と爪軸

131699-00JA00

【重要】

- 水洗いをするときは、エアクリーナーの吸気口やキャブレターに水が入らないようにしてください。(図 4-2)
- リコイルスターター部の吸気口に付いたごみは、きれいに掃除してください。エンジンの出力低下や破損の原因となります。(図 4-2)

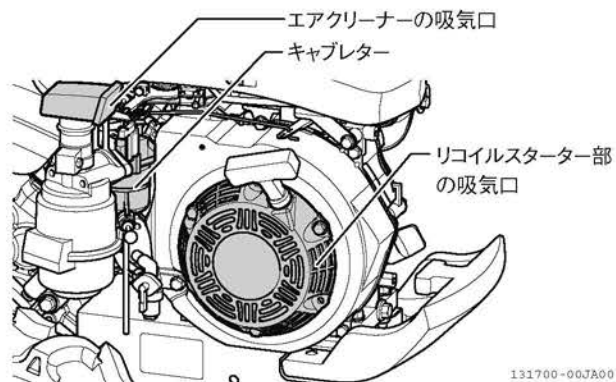


図 4-2 お手入れのしかた

131700-00JA00

【参考】

爪の手入れや洗浄をするときは、ロータリーカバーの両サイドのノブにリヤシートの穴を引っかけると、爪の手入れがしやすくなります。(図 4-3)

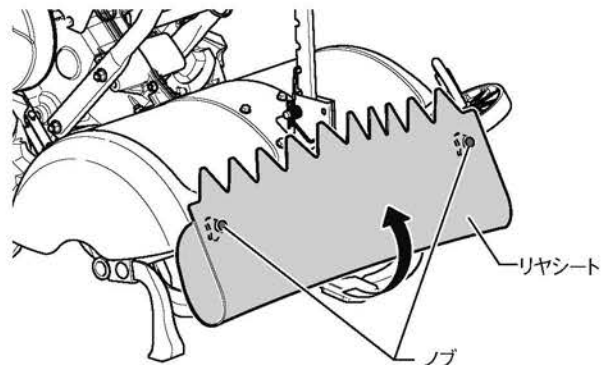


図 4-3 お手入れのしかた

131701-00JA00

洗淨のしかた

警告

- 洗淨は、平たんで安定した場所で行ってください。機械が動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 高圧洗淨機で洗淨するときは、洗淨ノズルを「拡散」位置にし、洗淨ノズルを機械から2 m以上離してください。

【守らないと】

- ・ 電気配線の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。
- ・ 油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害事故を引き起こすおそれがあります。

〈直接洗車厳禁〉

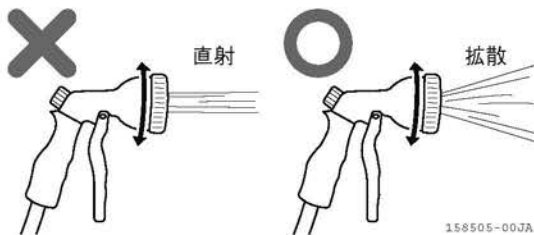


図 4-4

〈近距離放水厳禁〉

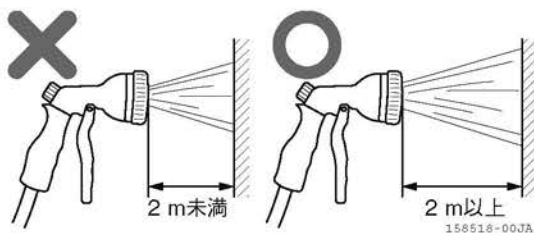


図 4-5

作業したその日のうちに機械を水洗いし、水洗い後は以下の掃除を行ってください。

- ・ 作業機などの回転部にはさまったり、巻き付いたりしている異物やごみを取り除く
- ・ 水分をよくふき取る
- ・ さびやすいところにはグリスを塗る
- ・ 回転部・摺動部に注油する
- ・ 各グリス注入部（グリスニップル）部に、グリスアップを行う

電装品接続部（カプラー）に水や泥水などが浸入した場合は、エアブローなどで吹き飛ばしてください。

【重要】

- 洗車のしかたが不適切な場合、故障や破損の原因になります。
 - ・ 安全銘板やシールのはがれ
 - ・ 電子部品、エンジン・ミッションへの水の浸入による故障
 - ・ タイヤ、オイルシール、クローラなどのゴム類、樹脂製のカバー、ガラスなどの破損
 - ・ 塗装、メッキ面の皮膜のはがれ
- 高圧洗淨機などにより洗車をするときは、以下の箇所には圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因になります。
 - ・ メーターパネル
 - ・ ステアリング周辺
 - ・ 油圧・走行操作レバー周辺
 - ・ バッテリー周辺
 - ・ その他電装品（スイッチやセンサー、コントローラーなど）

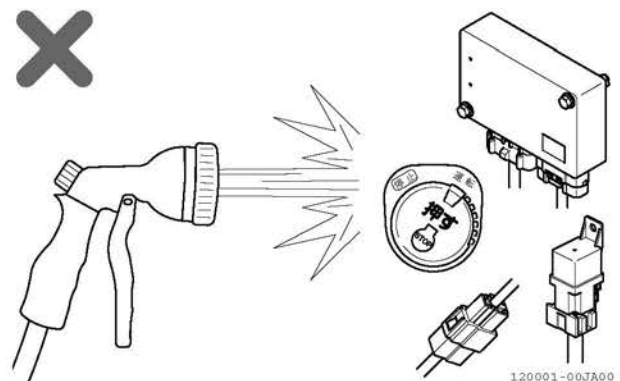


図 4-6

- エアクリーナー、電気部品には、水をかけないでください。故障の原因になります。

各部の注油箇所



▲ 注意

回転部へ注油するときは、必ずエンジンを停止して行ってください。

【守らないと】

けがをするおそれがあります。

〈凡例〉

注油位置： グリス位置：

■ テンションアーム支点

1. 変速カバーを外します。(ねじ：2本)

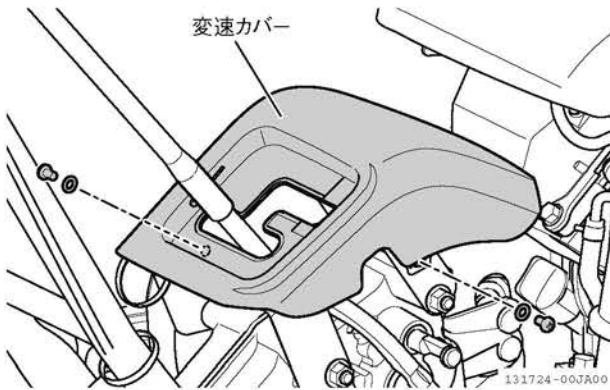


図 4-7 変速カバー

注油箇所

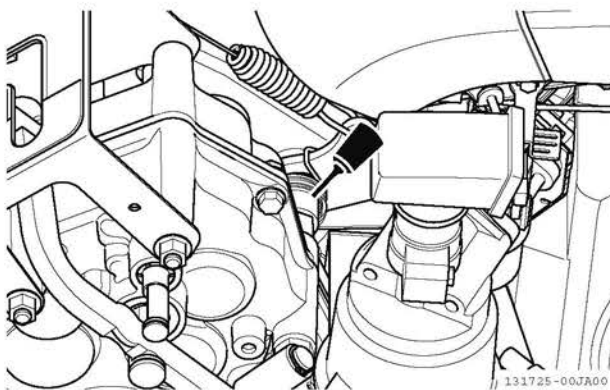


図 4-8 テンションアーム支点

【重要】

ベルトに油がかからないように注意してください。

2. 変速カバーを取り付けます。

■ 変速レバー支点

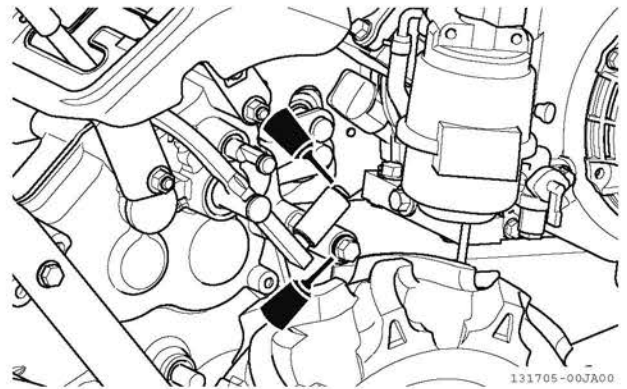


図 4-9 変速レバー支点

■ 主クラッチレバー・旋回レバー支点

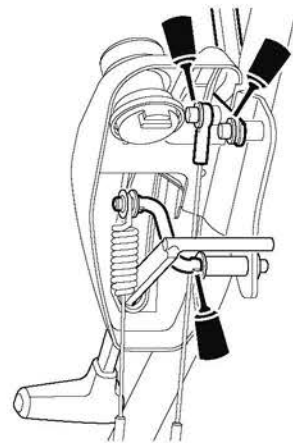


図 4-10 主クラッチレバー・旋回レバー支点

■ 主クラッチレバー・主クラッチワイヤー支点

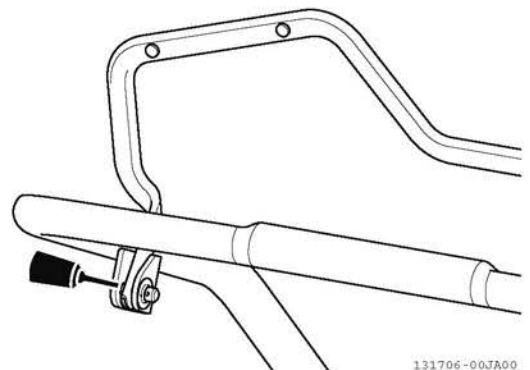


図 4-11 主クラッチレバー・主クラッチワイヤー支点

■ ワンタッチ切り替え尾輪部

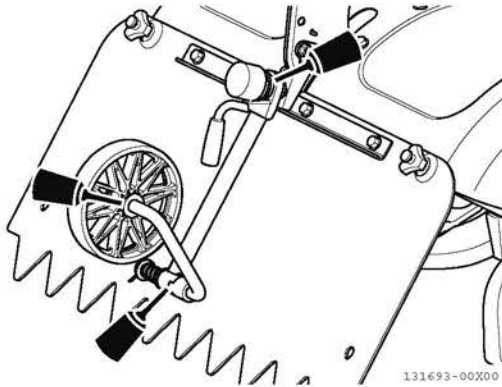


図 4-12 ワンタッチ切り替え尾輪部

■ ハンドル上下支点部(YK450CR)

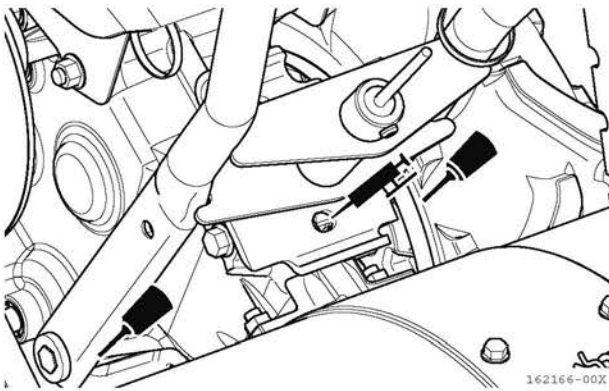


図 4-13 ハンドル上下支点部 (YK450CR)

点検・整備のしかた

点検・整備の前には、同梱の「安全に作業をするために ヤンマー管理機・ミニ耕うん機」をよくお読みください。

⚠ 警告

- 作業者および補助者は作業に適した服装をしてください。
【守らないと】
思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備時は、ミニ耕うん機を平たんで安定した場所に駐車し、エンジンを停止してください。また、手袋を着用してください。
- 室内で点検・整備をするときは、換気を十分に行ってください。エンジンの排出ガスで中毒を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 機械の摩耗などで角部が鋭利になっている場合、人が触れてけがをするおそれがあります。始業前に確認してください。また、鋭利部を見つけたらお買い上げいただいた特販店またはJAに修理をご依頼ください。
- ゴムホース類は、時間がたつと劣化します。2年ごとに交換してください。
【守らないと】
燃料が漏れて火災が起こり、けがをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、高温部分が十分に冷めてから行ってください。やけどをするおそれがあります。
- カバーを外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取り付けてください。元通りに取り付けないと、回転部に巻き込まれたり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

【重要】

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、お買い上げいただいた特販店またはJAにご相談ください。

定期点検・整備の時期について

定期点検や整備は、農閑期に行うと、農繁期にミニ耕うん機の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。ミニ耕うん機の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年ごとに整備工場にて定期点検・整備を受け、各部の保安を確認してください。特に燃料パイプやゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常にミニ耕うん機を最良の状態であって安心して作業が行えるようにしてください。

定期点検一覧表

表 4-1 定期点検一覧表

点検・調節箇所	点検・交換時期	内容	参照ページ
エンジンオイル	作業前に点検 1回目:25時間目に交換 2回目以降:50時間ごとに交換	規定量(目安量):0.5(0.45) L エンジンオイル(ガソリンエンジン用) API分類:SE級以上 SAE分類:10W-30番	37
走行ミッションオイル	1回目:50時間目に交換 2回目以降:100時間ごとに交換	規定量:2.0 L ミッションオイル90番	39
エアクリーナーエレメント	作業前に点検	灯油で洗浄、または交換	40
主クラッチレバー	作業前に点検	指でベルト中央部を押したときのたわみ量:約10 mm	41
旋回レバー	作業前に点検	デフ、デフロックがすぐに切り替わることを確認	42
耕うん爪	作業前に点検	耕うん爪の摩耗率が約60%以上になったときに交換	43
タイヤ	作業前に点検	空気圧:118 kPa(1.2 kg/cm ²)	46
点火プラグ	50時間ごとに点検	火花ギャップ(電極すき間):0.7 mm	45
エンジン取付ボルト 耕うん爪取付ボルト	作業前に点検	増締め	42
燃料パイプ、電気配線	作業前に点検	燃料パイプとその結合部の点検、 電気配線の被覆はがれや傷の点検	46
バッテリー	動作異常時	十分な運転による充電を行っても始動回数が少なくなったとき	48

燃料の点検・補給・排出のしかた

⚠ 危険

- 燃料補給時は火気厳禁です。
燃料は引火しやすいため、火災や爆発のおそれがあります。
 - ・ エンジンを必ず止めて燃料補給をしてください。
 - ・ タバコなどの火気を近づけないでください。
 - ・ こぼれた燃料は必ずふき取ってください。
- エンジン回転中やマフラーが熱い間は給油をしないでください。
【守らないと】
火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 規定量を守ってください。
【守らないと】
入れすぎると燃料キャップからガソリンがあふれ、こぼれたガソリンに引火して火災が起こり、やけどや死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料補給をする前に、機械などの金属部分に触れて、身体の静電気を放電してください。
【守らないと】
静電気の放電による火花が気化したガソリンに引火して火災や爆発が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料は、燃料ストレーナーを通して補給してください。
【守らないと】
ごみなどが詰まり、燃料が漏れて火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

燃料の補給をしたときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

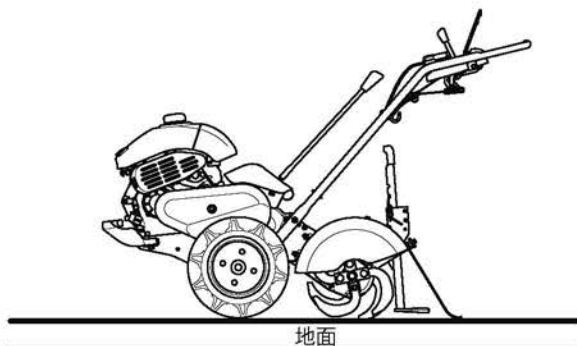
【守らないと】
やけどや火災を引き起こすおそれがあります。

【重要】

ガソリンは、絶対に河川や下水道などに流さないでください。環境汚染につながります。
ガソリンの処分は、特販店またはJAへご相談ください。

燃料の点検・補給のしかた

1. ミニ耕うん機を爪、タイヤが接地した状態にします。(図 4-14)



※爪、タイヤ接地状態

1.31.726-00JA00

図 4-14

2. 燃料キャップを外し、燃料フィルターにごみが詰まっていないことを点検します。(図 4-15)
3. 燃料タンク横の燃料ゲージで、燃料の残量を点検します。(図 4-15)

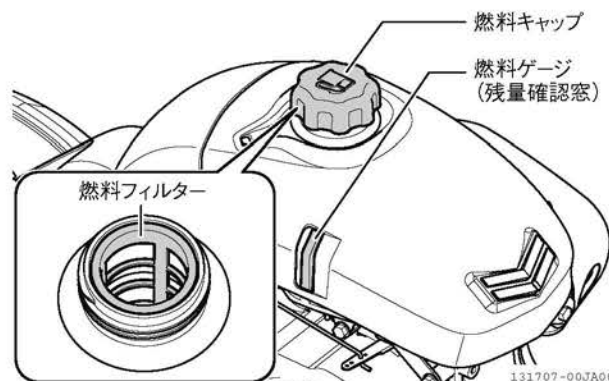


図 4-15 燃料補給

4. 不足している場合は、燃料キャップを外し、燃料ゲージの一番上まで燃料を補給します。

【重要】

- 点検時に、燃料漏れのないことを確認してください。
- 自動車用無鉛ガソリン（レギュラーガソリン）を使用してください。
混合ガソリンや軽油・灯油、または粗悪なガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンの故障につながります。
- ガソリンは自然劣化します。ご購入後 1 か月以上保管したガソリンは使用しないでください。
- 燃料を規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまで燃料を抜いてください。

燃料タンク内の燃料の抜きかた

1. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。
2. 燃料コシ器下部の四角部を工具 (10 mm) でゆるめて、燃料コシ器のカップを外します。
(図 4-16)

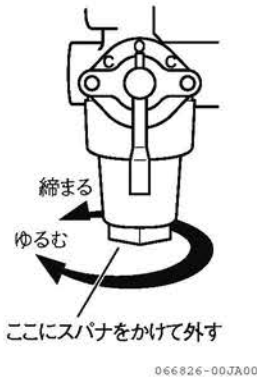


図 4-16 燃料コシ器 (カップ)

3. 燃料コシ器の下に容器を置き、燃料コックレバーを「O (開)」位置にします。燃料タンク内の燃料が抜けます。
4. 燃料が全部抜けきったら、燃料コックレバーを「C (閉)」位置にし、燃料コシ器にカップを取り付けます。

キャブレター内の燃料の抜きかた

1. ドレンホースの下に容器を置きます。
2. ワンタッチキャブドレンを引いて、キャブレター内の燃料を抜きます。(図 4-17)
3. 燃料が全部抜けきったら、ワンタッチキャブドレンを離します。

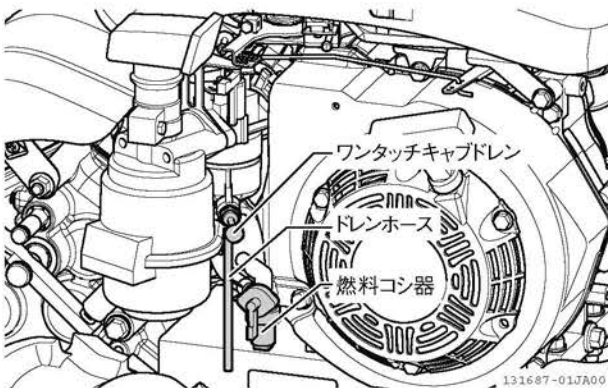


図 4-17 燃料の抜きかた

オイルの点検・交換のしかた

▲ 注意

オイルの点検・交換・補給でこぼれたオイルは必ずふき取ってください。

【守らないと】

滑って転倒し、けがをするおそれがあります。

【重要】

オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。環境汚染につながります。廃油の処分は、特販店またはJAへご相談ください。

エンジンオイル

【重要】

- オイルが不足しているとエンジンの力が出にくくなるだけでなく、焼き付きなど故障の原因になります。
- オイルを入れすぎた場合もエンジンの力が出にくくなり、故障の原因になります。

表 4-2 エンジンオイルの規定量

規定量(目安量)	0.5(0.45) L
----------	-------------

エンジンオイルの点検・交換は、エンジンを水平な状態にしてから行ってください。(図 4-18)

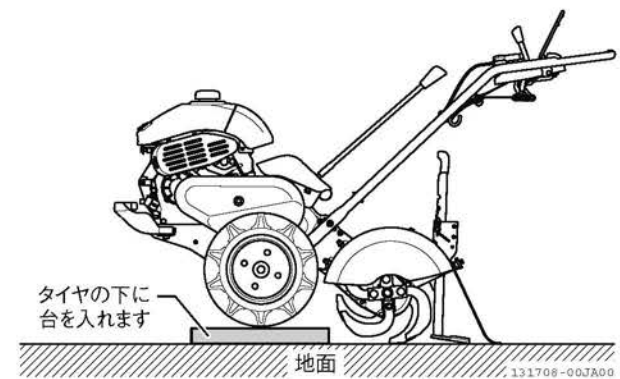


図 4-18 エンジン水平

【参考】

- オイル交換時は、エンジン内にオイルが若干残るため、目安量を補給後、検油ゲージでオイル量を確認してください。
- 高さ約5 cmの台を入れると、エンジンが水平になります。

■ 点検のしかた

1. 給油口のふたを外して、先端の検油ゲージのエンジンオイルをきれいにふきます。(図 4-19)
2. 給油口のふたを給油口に差し込み、もう一度抜き出します。(図 4-19)

【重要】

エンジンオイルの量を確認するときは、給油口のふたをねじ込まないでください。

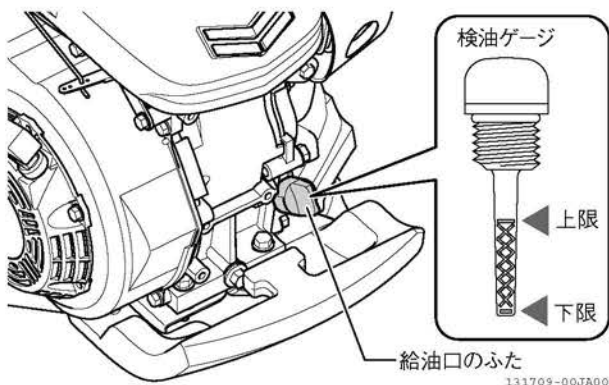


図 4-19 点検のしかた

3. エンジンオイルが検油ゲージの上限と下限の間にあることを確認します。
4. 点検後、給油口にふたを取り付けます。

【参考】

点検時、エンジンオイル漏れのないことを確認してください。

■ 補給のしかた

エンジンオイルが不足している場合は、油面が検油ゲージの上限の位置になるまで、給油口から補給します。

【重要】

- 補給するエンジンオイルは、必ず指定オイルを使用してください。

表 4-3 エンジンオイルの等級

エンジンオイル(ガソリンエンジン用) API分類:SE級以上 SAE分類:10W-30番
--

- エンジンオイルを規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまでエンジンオイルを抜いてください。

■ 交換のしかた

1. エンジン前面にあるドレンプラグの下に、古いエンジンオイルを受ける容器を置きます。
2. ドレンプラグを工具(12mm)で外します。古いエンジンオイルが流れ出てきます。(図 4-20)

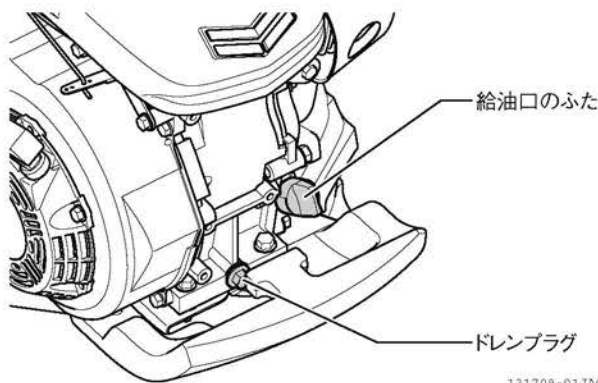


図 4-20 交換のしかた

【参考】

給油口のふたを外すと、エンジンオイルが抜けやすくなります。

3. 古いエンジンオイルが抜けきったら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
4. 給油口に規定量のエンジンオイルを給油します。

【参考】

エンジンオイルが完全に抜けきらず、規定量の給油をできない場合があります。こぼれないように給油してください。

5. 給油口のふたを元通りに取り付けます。

走行ミッションオイル

表 4-4 ミッションオイルの規定量

規定量	2.0 L
-----	-------

表 4-5 ミッションオイルの等級

ミッションオイル90番

■ 交換のしかた

1. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。
2. ハンドルを持ち上げて、エンジン側を接地させます。(図 4-21)



図 4-21

3. 走行ミッションケースの下部にあるドレンプラグの下に、古いミッションオイルを受ける容器を置きます。

4. ドレンプラグを工具 (12 mm) で外します。
古いミッションオイルが流れ出てきます。
(図 4-22)

【参考】

- 給油口のふたを外すと、ミッションオイルが抜けやすくなります。
- 走行ミッションオイルが温かいうちに抜くと、容易にミッションオイルを抜くことができます。

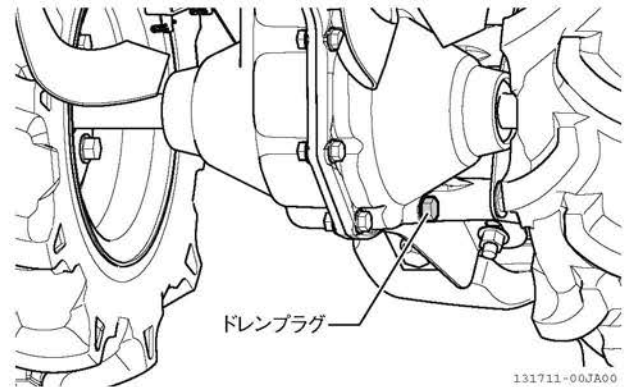


図 4-22 交換のしかた (ドレンプラグ)

5. 古いミッションオイルが抜けきったら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
6. ハンドルを下げてミニ耕うん機のタイヤと爪を接地させて、給油口に規定量のミッションオイルを給油します。
7. 給油口のふたを元通りに取り付けます。

エアクリーナーの洗浄のしかた

警告

エアクリーナーエレメントの掃除は運転前に行ってください。運転中、および運転直後は掃除をしないでください。

【守らないと】

パッチン錠などが高温になって、やけどをするおそれがあります。

エアクリーナーを汚れたままで使用すると、エンジンの出力低下や、故障の原因になります。つぎの要領で、エアクリーナーを定期的に洗浄してください。

1. オイルだまりを固定している、パッチン錠を解除して、オイルだまりを外します。(図 4-23)
2. エレメントのスポンジ部を外し、灯油で洗って乾燥させます。
3. スポンジ部はエンジンオイルに浸し、固くしぼってから取り付けます。

【重要】

エレメントの外装部品は、灯油で洗浄しないでください。

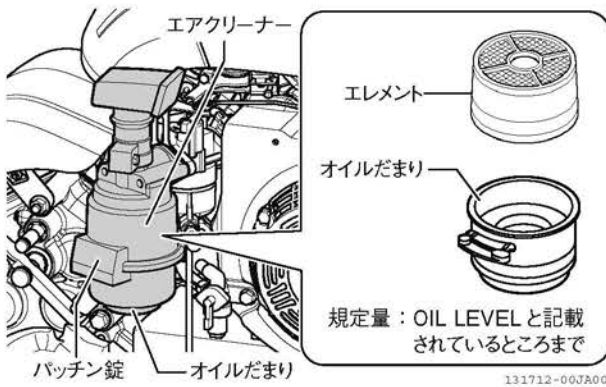


図 4-23 エアクリーナー

4. オイルだまりはよく洗浄し、規定量の新しいエンジンオイルを入れます。(ガソリンエンジン用エンジンオイルSE級以上)
5. エレメントの上下方向を間違えないようにエアクリーナーへ入れ、オイルだまりを元通りに取り付けます。(図 4-23)

燃料コシ器エレメントの掃除のしかた

燃料コシ器エレメントは、燃料内の小さなごみをこし取るものです。つぎの要領で、定期的に掃除してください。

1. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。(図 4-24)

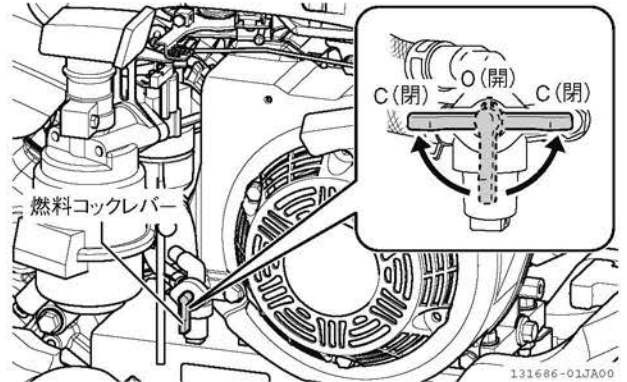


図 4-24 燃料コックレバー

2. 燃料コシ器下部の四角部を工具 (10 mm) でゆるめます。(図 4-25)
3. 燃料コシ器内の水やごみを取り除き、フィルターネットの目詰まりなどを掃除します。
4. フィルターネット、パッキン、ストレーナーカップの順に元通りに取り付けます。(図 4-25)

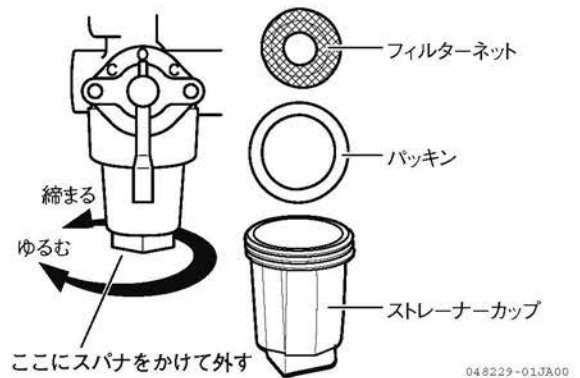


図 4-25 燃料コシ器エレメント

【参考】

フィルターネットは、燃料コシ器の上部に入っています。

主クラッチレバーの点検のしかた

1. 左のタイヤが地面から浮くように機体を支えます。
2. 左のタイヤの取り付けピンを外して、タイヤを外側にずらします。(図 4-26)

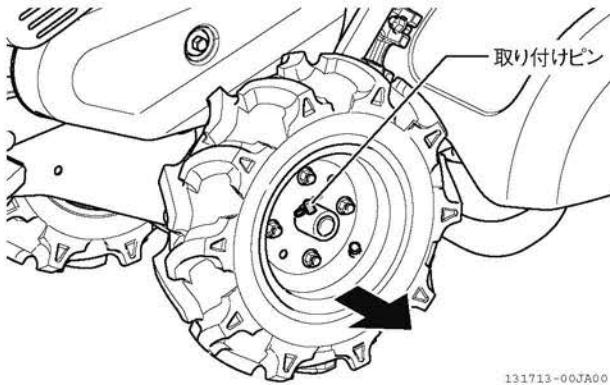


図 4-26 取り付けピン

3. ベルトカバーを外します。(ボルト：1本)
(図 4-27)

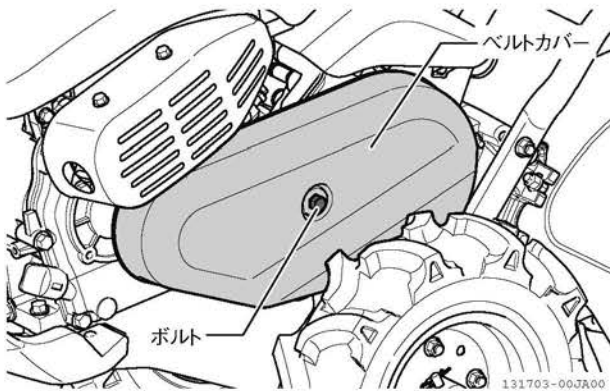


図 4-27 ベルトカバー

4. 主クラッチレバーの「入」「切」が確実にできることを確認します。(11 ページの「主クラッチレバー」を参照)

5. 主クラッチレバー「切」位置、変速レバーを「中立」位置にして、主軸プーリが手で軽く回り、ベルトと主軸プーリの連れ回りがなくことを確認します。(図 4-28)

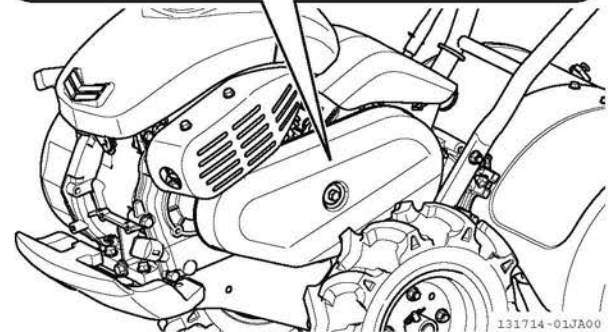
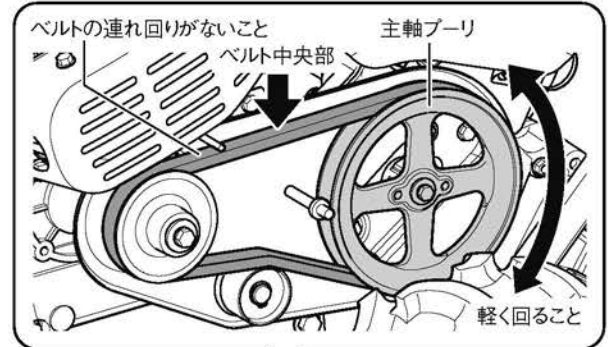


図 4-28 点検のしかた

6. 主クラッチレバー「入」位置で、ベルト中央部を指で押したときのたわみが約10 mmであることを確認します。(図 4-28)
7. ベルトカバーを取り付けます。
8. タイヤを元通りに取り付けます。

旋回レバーの点検のしかた

旋回レバーを動かしたとき、タイヤのデフ・デフロックがすぐに切り替わることをハンドルを左右に振って確認します。

調整する必要がある場合、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。

増締めするところ

- エンジン取付ボルト (4カ所) (図 4-29)

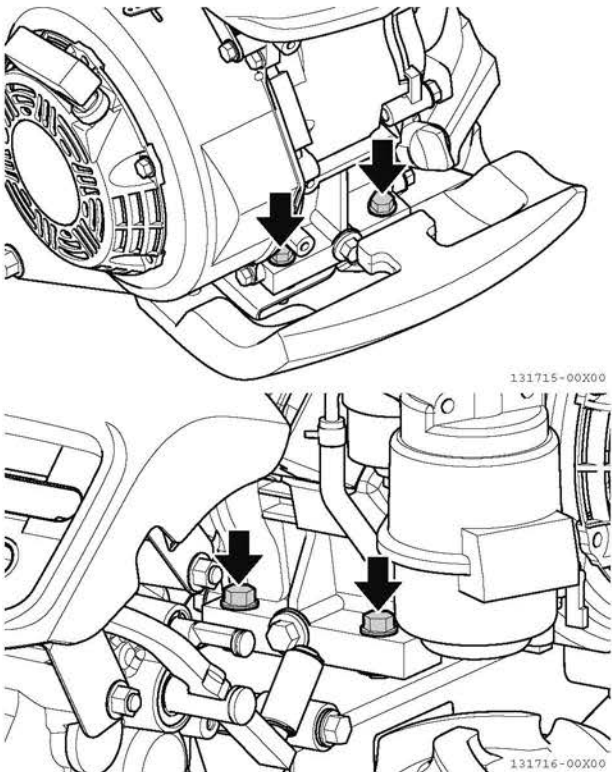


図 4-29 エンジンボルト

- 耕うん爪取付ボルト (各爪座) (図 4-30、図 4-31)
ロータリーの爪、すべての取付ボルトと取付ナットを増締めします。

表 4-6 増し締めする箇所

YK400CR	8カ所
YK450CR,ZLE	
YK400CR,ZL	6カ所
YK400CR,ZLE	

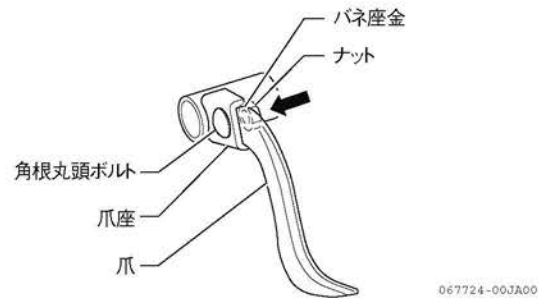


図 4-30

表 4-7 増し締めする箇所

YK400CR	—
YK400CR,ZL	4カ所
YK400CR,ZLE	
YK450CR,ZLE	



図 4-31

耕うん爪の点検・交換のしかた

▲ 注意

爪の手入れや交換をするときは、厚手の手袋を着用してください。

【守らないと】

思わぬけがをするおそれがあります。

効率のよい作業をしていただくために、耕うん爪は、早めに交換してください。

耕うん爪の点検のしかた

■ 点検のしかた

- 耕うん爪の損傷・曲がり、および摩耗を点検します。
- 取付部のガタがないことを点検します。

■ 耕うん爪の摩耗の見かた

耕うん爪の爪摩耗率が約60%になっていると交換時期です。(図 4-32)

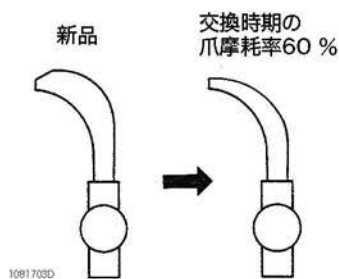


図 4-32 耕うん爪の摩耗

耕うん爪の交換のしかた

▲ 注意

爪の向きと刃面の方向を間違えないように注意してください。

【守らないと】

思わぬけがをするおそれがあります。

表 4-8 爪の取付方向

	正しい付けかた	間違った付けかた
正転爪		
逆転爪 (ZL・ZLE仕様)		

【重要】

〈ZL・ZLE仕様〉では、耕うん時の爪の回転力によるミニ耕うん機の飛び出し(ダッシュ現象)を防ぐために、内側の爪と外側の爪が、それぞれ逆向きに回転する機構を採用しています。

耕うん爪を取り付けるときは、爪の種類や本数、爪の向き、回転方向に注意して、正しく取り付けてください。間違って取り付けると、故障の原因になります。

1. 耕うん爪の取付ボルトを外して、爪を交換します。(図 4-33)

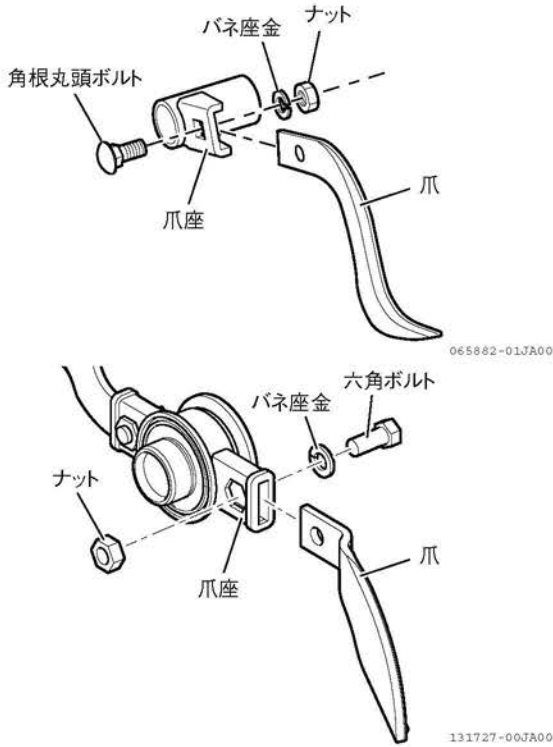


図 4-33 爪交換

2. 交換後は取付ボルト、取付ナットを締めます。

表 4-9 YK400CR,標準仕様

ナタ爪	左	4本
	右	4本

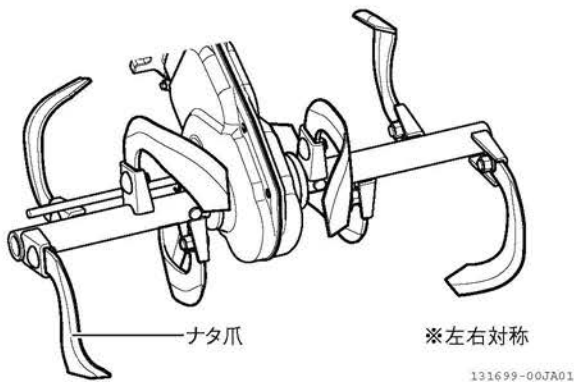


図 4-34 爪の取付方向 (YK400CR,標準仕様)

表 4-10 YK400CR,ZL・ZLE仕様

ナタ爪	左	3本
	右	3本
偏心直爪	左	1本
	右	1本
ヒネリ爪	左	1本
	右	1本

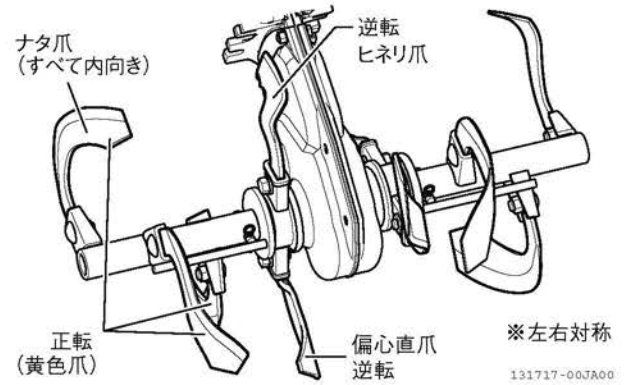


図 4-35 爪の取付方向 (YK400CR,ZL・ZLE仕様)

表 4-11 YK450CR

ナタ爪	左	4本
	右	4本
偏心直爪	左	1本
	右	1本
ヒネリ爪	左	1本
	右	1本

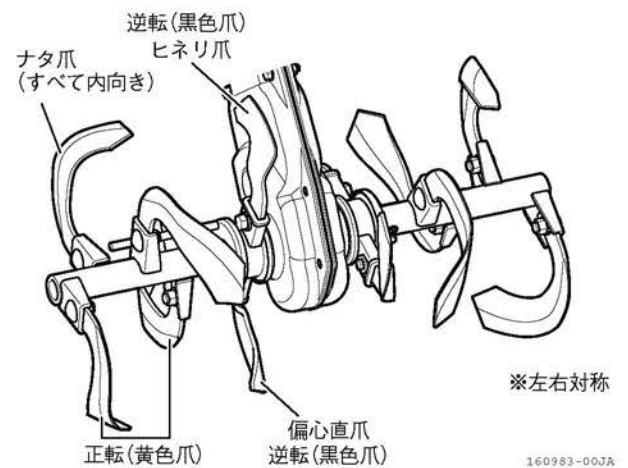


図 4-36 爪の取付方向

点火プラグの点検・掃除・交換のしかた

⚠ 警告

点火プラグの点検・掃除・交換は、運転前に行ってください。運転中、および運転直後は点検・掃除・交換をしないでください。

【守らないと】

高温部でやけどをするおそれがあります。

電極部が焼けたり、損耗または破損している点火プラグを使用すると、エンジンの不調や排ガス不良になります。

定期的に点火プラグの点検・掃除をしてください。

■ 点検のしかた

1. リヤカバーを外します。(図 4-37)

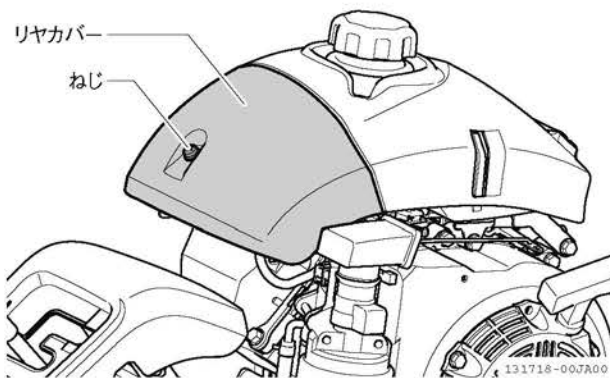


図 4-37 リヤカバー

2. プラグコードを外します。
3. 付属のプラグレンチを使用して点火プラグをエンジンから外します。
4. 点火プラグの電極部の焼け具合、損耗の程度を点検します。
5. 火花ギャップ（電極すき間）を0.7 mmに調整します。(図 4-39)

6. 点火プラグを元通りに取り付け、プラグコードを確実に差し込みます。(図 4-40)

【重要】

点火プラグを取り付けるときは、ねじ山をつぶさないようにしてください。

プラグレンチに点火プラグを差し込んで、はじめに手で締め込んでから、お手持ちのドライバーなどをプラグレンチの穴に通して締め付けてください。

(図 4-38)

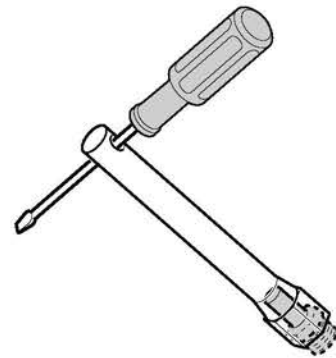


図 4-38 プラグレンチとドライバー

■ 掃除のしかた

電極部をワイヤーブラシで掃除します。

■ 交換のしかた

電極部が損耗または、破損したものは新品と交換します。点検のしかたの要領で点火プラグを外し、交換してください。

表 4-12 点火プラグ

標準点火プラグ	ZLE仕様以外	NGK製 (BP6HS)
	ZLE仕様	NGK製 (BPR6HS)

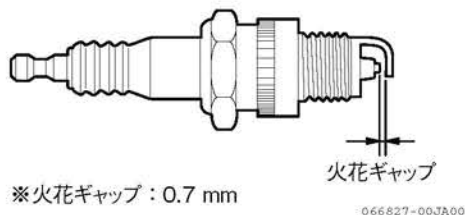


図 4-39 火花ギャップ

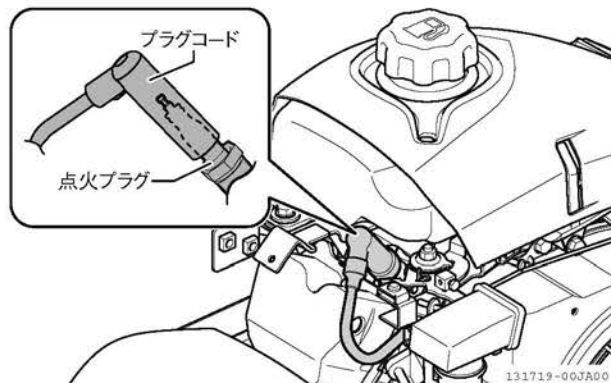


図 4-40 交換のしかた

4
お
手
入
れ
の
し
か
た

タイヤの空気圧の調整のしかた

▲ 注意

タイヤの空気圧の入れすぎや、過度に少ない場合、タイヤが破裂して思わぬけがをすることがあります。

左右のタイヤの空気圧を118 kPa (1.2 kg/cm²) に調整します。(図 4-41)

左右のタイヤの空気圧が均等になっていないと、運転中にハンドルを取られることがあります。

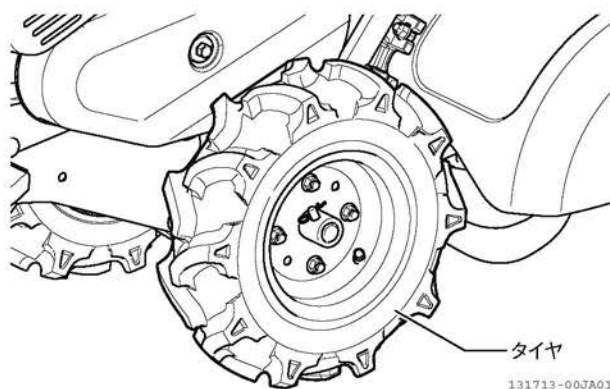


図 4-41 タイヤの空気圧調整

燃料パイプ・電気配線の点検のしかた

▲ 注意

ゴムホース類は、時間がたつと劣化します。2年ごとに交換してください。

【守らないと】

燃料漏れによるやけどや火災が起こり、けがをすることがあります。

燃料パイプの傷や接続部の締付バンドのゆるみ、燃料漏れがないことを確認します。

また、電気配線が他の部品に接触して、被覆のはがれや傷がないこと、接続部のゆるみがないことを点検します。

燃料パイプや電気配線が傷んでいる場合は、お買い上げいただいた特販店またはJAなどで修理をご依頼ください。傷んでいなくても、2年ごとに交換するようにしてください。

バッテリーの長期保管時の手入れ (ZLE仕様)

- 60℃以下の高温にならない場所に保管してください。
- 屋内で湿気が少なく換気のよい場所に保管してください。
- 長期保管の前は十分な運転により充電を行ってください。

バッテリーの点検(ZLE仕様)

⚠ 警告

- バッテリーカバーを外して使用しないでください。
- バッテリーを火中に投下したり、火気に近づけたり、加熱したり、また高温状態で放置したりすると、発熱、発火、破裂することがあります。
- バッテリーを分解・改造すると発熱、発火、破裂の原因となります。
- バッテリーはエンジン運転中に自動で充電されます。指定以外の方法で充電すると、発熱、発火、破裂することがあります。
- バッテリーはエンジン始動専用です。指定以外の用途に使用すると、発熱、発火、破裂することがあります。
- バッテリーに強い衝撃を与えないでください。バッテリーに衝撃を与えた場合、あるいは外観に明らかな変形や破損が見られる場合には使用をやめてください。
- バッテリーコードを強く引っ張らないでください。
- バッテリーを外部充電しないでください。
- バッテリーから漏液したり、異臭がするときにはただちに火気より遠ざけてください。
- バッテリーを工具などでショートやスパークさせないでください。

燃料パイプの傷や接続部の締付バンドのゆるみ、燃料漏れがないことを確認します。

バッテリーの仕様

本製品は充電式リチウムイオンバッテリーを使用しています。バッテリーはバッテリーカバー内にあります。

表 4-13 バッテリーの仕様

電池の種類	リチウムイオン電池
定格容量	1.0Ah
定格電圧	DC12.8V
使用可能温度	0~60℃
保存温度	0~60℃(推奨0~20℃)

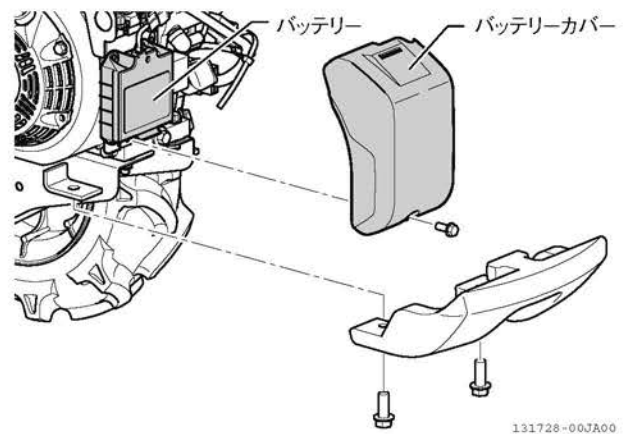


図 4-42 バッテリー

【参考】

- 初めてお使いになるときは、リコイルスターターでエンジン始動させ十分な運転により充電を行ってください。
- バッテリーからの電源取り出しはできません。

バッテリーの充電方法

バッテリーはエンジン運転中に自動で充電されます。充電が切れた場合は下記手順で充電します。

1. リコイルスターター（18 ページ）を参照し、エンジンを始動します。
2. アクセルレバー「高」側で充電できます。

表 4-14 充電時間(新品時での目安)

満充電	約50分
始動1回分	約1分

【重要】

- セルモーターを 5 秒間回してもエンジンが始動しないときは、10秒以上時間を空けてから再始動してください。
- セルモーターを 5 秒以上回し続けたり、また短い休止時間で断続的にセルモーターを回すと、バッテリーが発熱して内部の保護機能が作動しますのでおやめください。
- 保護機能が作動したバッテリーパックは充放電ができなくなるため交換が必要です。
- 低温時はバッテリーの出力特性が弱くなるため、始動できない場合があります。その際は、リコイルスターターで始動してください。

ヒューズの交換

ワイヤーハーネス部のヒューズホルダー内のヒューズを交換してください。

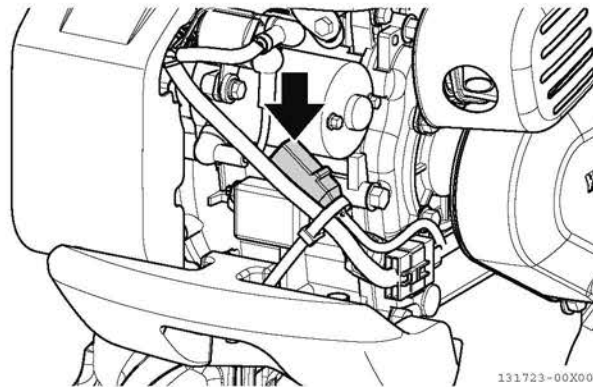


図 4-43 ヒューズ

表 4-15 規定ヒューズ

品番	198535-52160
品名	ヒューズ(7.5A)

【重要】


ヒューズを交換してもすぐに切れる場合は、お買い上げいただいた特販店、または JA までご連絡ください。

バッテリーの寿命と交換

- 十分な運転による充電を行っても始動回数が少なくなった場合は寿命です。(バッテリーの寿命は使用・保管などの状態により変化します)
- 寿命、もしくは保護機能が作動したバッテリーパックは交換が必要です。ご購入先に相談してください。

不調診断のしかた

表 4-16 不調診断のしかた

状 況	この確認をしてください	処 置	参照ページ
エンジンが始動しない場合	燃料タンクに燃料が入っていますか。	燃料を補給してください。	36
	エンジンの始動手順が間違っていますか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。	16
	燃料コックレバーが「C(閉)」位置になっていませんか。	燃料コックレバーを「O(開)」位置にしてください。	16
	燃料に水が入っていませんか。	燃料コシ器に水がたまっていれば、燃料コシ器を外して、水抜きをしてください。	40
	ご購入後 1 カ月以上経過したガソリンを使用していませんか。	燃料タンクキャブレター内のガソリンを抜き、新しいガソリンを補給してください。	36
	点火プラグが悪くなっていますか。	点火プラグを外して、火であぶるか、乾いた布でよく乾燥させてください。	45
	 火花ギャップ ZLE仕様以外:NGK製(BP6HS) ZLE仕様 :NGK製(BPR6HS)	点火プラグの火花ギャップを調節してください。または、新しい点火プラグと交換してください。それでも始動しない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。	
各リード線が外れていませんか。	コネクタ、リード線の接続を点検してください。	-	
(ZLE仕様のみ) セルモーターが回りますか。		リコイルスターターでエンジン始動しバッテリーを充電してください。	18
		充電してもセルモーターが回らない場合はバッテリーを交換してください。	48
各部に振動が多い場合	エンジンが振れるのではありませんか。	エンジン取付ボルト、およびエンジンフレーム取付ボルトを強く、締め直してください。	42
エンジンの力がない場合	エアクリーナーにごみが詰まっていますか。	エレメントを外し、きれいに掃除するか交換してください。	40
	エンジンオイル量が少なくなっていますか。	エンジンオイルを補給してください。また、古くなっている場合は、新しいエンジンオイルと交換してください。	37
	エンジンの回転は上がりますか。	アクセルレバーの取付位置が動いていたら、元の位置へ確実に固定してください。 アクセルワイヤーのセット位置を変えてください。	-
	エンジンの圧縮がないのではありませんか。	点火プラグを締めてください。それでも改善しない場合は、ピストンリングなどの摩耗も考えられます。お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。	45
主クラッチレバーを「入」位置にしても走行しない場合	ベルトが伸びて、スリップしていませんか。	ベルトの張りを確認してください。	41
耕深調節棒の操作ができない場合	耕深調節棒に泥や草が付着していませんか。	泥や草を取り除き、耕深調節棒部の摺動部分にオイルを塗ってください。	26
旋回レバーを「旋回」位置にしても、左右のタイヤが常に同じ回転をする場合(旋回しにくい)	ワイヤーがゆるんでいませんか。	お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。	42

保管するときは

▲ 注意

- ミニ耕うん機を高いところに保管しないでください。また、ハンドル部を利用してミニ耕うん機を吊り下げた状態での保管もしないでください。落下するおそれのある保管方法は絶対にしないでください。
- 格納（保管）は、ミニ耕うん機が倒れたり動いたりしない平たんで安定した場所に格納してください。
- 耕うん爪などの突起部が露出した状態で保管しないでください。リヤシートを下ろしてください。
- ミニ耕うん機にカバーをして保管する場合は、耕うん爪などの突起物でけがをしないように、壁など人が近づかない方向に向けて保管してください。

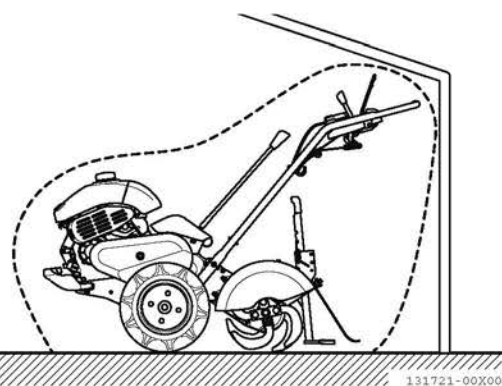


図 5-1 ミニ耕うん機の保管方法

ミニ耕うん機は、直射日光や雨水のあたらない、風通りのよい屋内で保管します。雨水などがエアクリナーやキャブレターにかかると、エンジンの故障などにつながります。

特に長期保管するときは (1カ月以上)

【重要】

1カ月以上ミニ耕うん機を使用しない場合は、必ず燃料タンク、キャブレター、燃料コシ器の中の燃料を完全に抜き取ってください。

抜き取らないと、エンジン不調の原因になります。

保管のしかた

エンジンの手入れ

1. リヤカバーを外します。
(45 ページの「点検のしかた」を参照)
2. プラグコードを外します。
3. 点火プラグをプラグレンチ（付属品）で外します。(図 5-2)

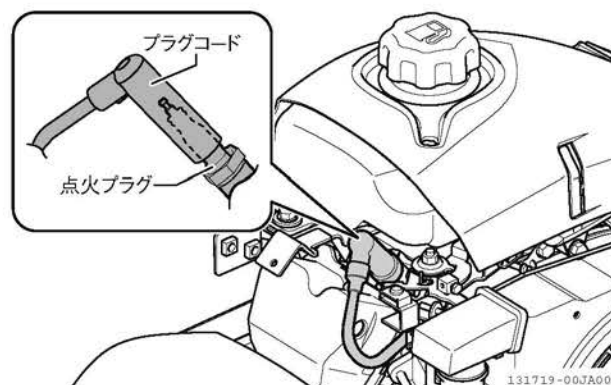


図 5-2 点火プラグ

【参考】

プラグレンチは、お手持ちのドライバーなどと合わせてご使用ください。

4. プラグの取り付けしていた穴からガソリンエンジン用のエンジンオイルを約2~3 cc入れます。
5. 点火プラグを外すときの逆の手順で取り付けます。

【重要】

点火プラグを取り付けるときは、ねじ山をつぶさないように、はじめに手で締め込んでから、プラグレンチで締め付けてください。

6. リコイルスターターを軽く引いて、重たくなったところ（圧縮位置）で止めます。
7. リヤカバーを取り付けます。

燃料の抜き取り

燃料タンク・キャブレター・燃料コシ器の中の燃料を完全に抜き取ります。

作業方法は、36ページの「燃料の点検・補給のしかた」を参照ください。

タイヤの保管

長期格納のときは、タイヤの下に木台を敷いてください。

トラックへの積み・降ろしのしかた

⚠ 警告

ロープなどを使って人力で荷台へ引き上げたり、人力で持ち上げたりしないでください。

【守らないと】

落下によりけがをするおそれがあります。

【参考】

トラックへの積み・降ろしのしかたは、同梱の「安全に作業をするために ヤンマー管理機・ミニ耕うん機」の記載内容をお読みになり、注意事項を守ってください。

トラックの荷台への固定のしかた

1. 〈ZL・ZLE仕様〉

尾輪を耕うん位置にします。

2. 耕深調節棒を上げて耕うん爪を接地させます。

3. ミニ耕うん機をタイヤと耕うん爪で支えるようにして、バンパーとロープフックにロープをかけて固定します。(図 6-1)

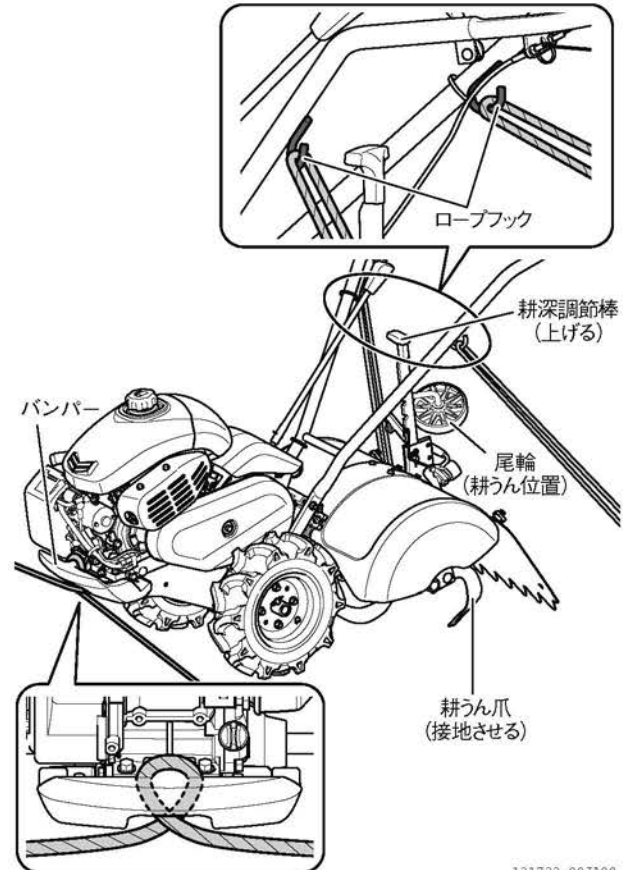


図 6-1 ロープ固定

【重要】

- ミニ耕うん機をタイヤと耕うん爪で支えるようにして、バンパーとロープフックにロープをかけて固定してください。

守らないと、変形や破損するおそれがあります。

- 輸送時は、燃料コックレバーを「C (閉)」の位置にしてください。

エンジンの故障の原因になります。

7章 仕様

主要諸元

名称	ヤンマーミニ耕うん機				
型式名	ヤンマー K0053				
販売型式名	YK400CR		YK450CR		
仕様	—	ZL(一軸正逆転)	ZLE(一軸正逆転・セル仕様)		
機体寸法	全長 (mm)	1330	1350	1380	
	全幅 (mm)	610			
	全高 (mm)	1050	1045	1000	
機体質量 (kg)	66	70	73	75	
エンジン	型式名	GB131LN		GB131LL	
	種類	空冷4サイクルOHVガソリンエンジン			
	総排気量 (L{cc})	0.126{126}			
	定格出力/回転速度 (kW{PS})/rpm	2.0{2.7}/1600			
	最大出力 (kW{PS})	3.0{4.2}			
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン(レギュラーガソリン)			
	燃料タンク容量 (L)	2.0			
	始動方式	リコイルスターター方式	リコイルスターター/セルスタート方式		
	エアクリーナー	オイルバス			
	エンジンオイル規定量 (L)	0.5			
走行部	車輪	タイヤ 3.50-6 (φ325)	タイヤ 3.50-7(φ350)		
	輪距 (mm)	371(外幅:464)	383(外幅:483)		
	主クラッチ形式	ベルトテンション式(デッドマン)			
	操向クラッチ形式	デフ式(ロック付)			
	走行変速段数 (段)	前進2/後進1			
	走行速度	前進	低速 (m/s)	0.30	0.32
			高速 (m/s)	0.97	1.04
		後進 (m/s)	0.30	0.32	
	車軸形状	形状	丸軸		
		軸径 (mm)	φ20		
ミッションオイル規定量 (L)	2.0				
ロータリー	駆動方式	センタードライブ			
	変速段数	正転1	正転1(一軸正逆転)		
	回転速度	正転 (rpm)	254		
		逆転 (rpm)	—	234	
	爪回転外径 (mm)	φ300	正転:φ300 逆転:φ300		
	最大耕深 (mm)	150			
	耕幅 (mm)	500		520	
	耕うん軸形状	形状	丸軸		
		軸径 (mm)	φ20		
	爪	形状	ナタ		
本数 (本)		左右各4	左右各5 (正転:3、逆転:2)	左右各6 (正転:4、逆転:2)	
耕深調整	調節式ソリ(ノッチ式)				
ハンドル上下調節	ボルト固定3段		ワンタッチ4段		

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

廃棄をするときは

廃棄物を間違った方法で処分すると、環境汚染につながります。このミニ耕うん機に使用されている、燃料・オイル・フィルター・ベルト・ホースなどは、正しく処分してください。

ミニ耕うん機の廃棄

ミニ耕うん機を廃棄するときは、お買い上げいただいた特販店またはJA、もしくは廃棄物処理業者にご依頼ください。法律に違反する行為は絶対にしないでください。詳しくは、お住まいの自治体の指導に従ってください。

廃油の処理

オイル交換で出た廃油は、河川や下水道、溝、空地などに絶対に捨てないでください。環境汚染につながります。

廃油の処分については、お買い上げいただいた特販店またはJAまでご相談ください。

ホース類の処理

ホース類の合成ゴム製品は、放置したり、捨てたりせず、お買い上げいただいた特販店またはJAへお渡しください。資源としてリサイクルされます。

リチウムイオンバッテリーの処理

リチウムイオンバッテリーは回収、再資源化が義務付けられています。

バッテリーパックを家庭ごみとして処分しないでください。

バッテリーの処分については、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご相談ください。

9章 サービスと保証について

保証書は大切に保管してください

「保証書」は、お客さまが保証修理を受けられる際に必要になるものです。お読みになった後は、大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

ミニ耕うん機の調子が悪いときは、49ページの「不調診断のしかた」に従って、点検・処置してください。それでもなお不具合があるときは、つぎの「ご連絡していただきたい内容」を明確にして、お買い上げいただいた特販店またはJAまでご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 販売型式名と製造番号
- エンジンの場合は、エンジンの番号
- ご使用状況は？
(車速やどんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか？
(約□□アールまたは約□□時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお伝えください。

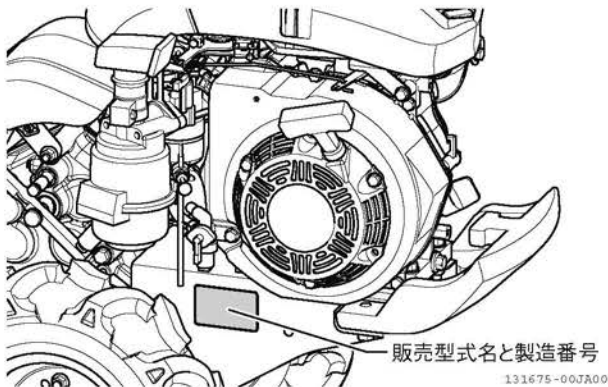


図 9-1 販売型式名と製造番号

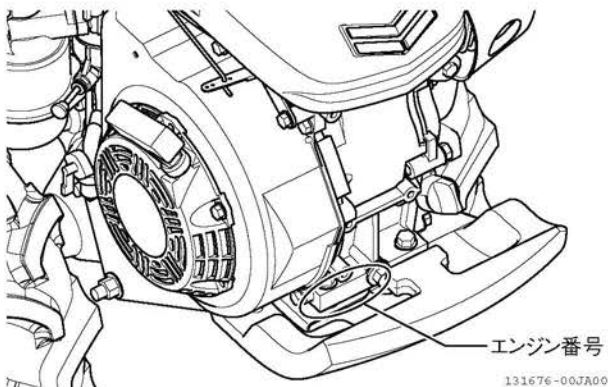


図 9-2 エンジン番号

補修部品の供給年限について

この製品の補修部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については、納期などをご相談させていただく場合もあります。補修部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

メーカー純正部品・オイルについて

純正部品・純正オイルは、厳密なテストを重ね、厳しい品質検査に合格したもので、安心して使用していただけます。

部品・オイルを交換する場合には、必ず純正部品・純正オイルをご指定ください。



2034455

図 9-3 純正部品・純正オイル

改造について

勝手な改造はしないでください。安全性・性能・耐久性の保証の対象外となります。

あ	
アクセルレバー.....	11
え	
エアクリーナー.....	15, 40
エレメント.....	40
エンジンオイル.....	37
エンジンスイッチ.....	11, 12
エンジン番号.....	1
き	
機体銘板.....	1
け	
検油ゲージ.....	38
こ	
耕うん爪.....	42, 43
耕深調節棒.....	13, 26
し	
主クラッチレバー.....	11
せ	
旋回レバー.....	12, 21
ち	
チョークレバー.....	14, 17
て	
点火プラグ.....	45
と	
ドレンプラグ.....	38, 39
ね	
燃料キャップ.....	36
燃料コシ器.....	37, 40
燃料コックレバー.....	14, 16
は	
ハンドル上下レバー.....	13
ひ	
ヒネリ爪.....	44
火花ギャップ.....	45, 46
尾輪.....	13, 24
へ	
ベルトカバー.....	41
偏心直爪.....	44
変速レバー.....	13, 20
み	
溝底幅切り替えプレート.....	29
ミッションオイル.....	39
り	
リコイルスターター.....	14, 17
リヤシート.....	28

ろ	
ロータリーカバー.....	30
わ	
ワンタッチキャブドレン.....	14, 37
ワンタッチ切り替え尾輪.....	13, 24

11章 部品リスト(部品早見表)

主要消耗部品

表 11-1 主要消耗部品

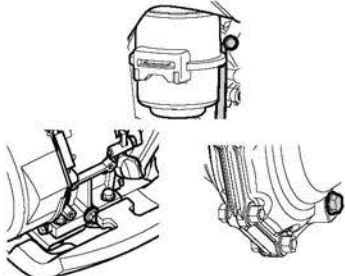
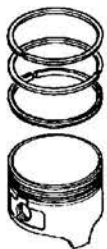
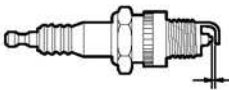
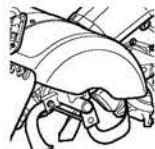
No.	品名	コードNo.	YK400CR	YK400CR, ZL	YK400CR, ZLE	YK450CR, ZLE
1	ベルト(SB33 コグ	1A2425-12050	○	○	○	○
2	ワイヤ(アクセル	1A2920-55510	○	○	○	○
3	ワイヤ(シュクラツチ	1A2425-55540	○	○	○	○
4	ワイヤ(デフロツク	1A2425-55560	○	○	○	○
5	点火プラグ ZLE仕様以外:NGK製(BP6HS)	165002-14620	○	○	—	—
6	点火プラグ ZLE仕様:NGK製(BPR6HS)	1A0058-00020	—	—	○	○
7	シール TC203510 (車軸オイルシール)	1E6050-19180	○	○	○	○
8	オイルシール 204708	1A2420-42250	○	—	—	—
9	オイルシール 354708(内側)	1A2420-42650	—	○	○	○
10	オイルシール 20×40×10(外側)	1A1540-28251	—	○	○	○
11	ヒラアタマピン 8×35	1A1540-46010	○	○	○	○
12	スナツブピン 8	1A1540-46020	○	○	○	○
13	ツメ(Y500STL)	1A2425-43800	—	○	○	○
14	ツメ(Y500STR)	1A2425-43810	—	○	○	○
15	ツメ(500SL)	1A2425-43820	—	○	○	○
16	ツメ(500SR)	1A2425-43830	—	○	○	○
17	ナタツメ Y500L	1A2580-43100	○	○	○	○
18	ナタツメ Y500R	1A2580-43110	○	○	○	○
19	リバースキー ASY	1C7020-06440	—	—	○	○
20	ヒューズ(7.5A)	198535-52160	—	—	○	○
21	バッテリーパック	1A0111-00020	—	—	○	○

12章 用語解説

本書の中で使われている用語の解説です。

表 12-1 用語解説

用語	解説	参照ページ
アユミ板 	<p>耕うん機をトラックなどに積み・降ろしをするときに使用する板のこと。</p> <p>アユミ板は、十分な強度があり、滑り止めの加工がされているものを使用してください。ブリッジとも呼ばれます。</p>	12
エLEMENT 	<p>エアクリーナーの構成部品の1つ。</p> <p>空気の通り道にあり、吸気からチリやほこりを取り除きます。</p> <p>ELEMENTで取り除かれたチリやほこりは、オイルだまりに落ちます。</p> <p>耕うん機を長時間使用すると汚れがたまりますので、定期的に洗浄してください。</p>	40
オイルバス式 エアクリーナー 	<p>燃焼・爆発するために吸引される空気をきれいにするエアクリーナーの一種。</p> <p>エアクリーナーの下側にエンジンオイルをため、エアクリーナー内の複雑な吸気の経路を通る途中で落ちるチリやほこりをエンジンオイルの粘性で吸着沈殿させます。</p> <p>長時間使用すると、エンジンオイルの中に沈殿物がたまるので、定期的にガソリン用エンジンオイルを交換してください。</p>	15、53他
キャブレター 	<p>エンジンの燃料(ガソリン)を気化する部品のこと。</p>	14、37他
コネクタ 	<p>配線と電気部品をつなぐカプラのこと。</p> <p>多くはプラスチック製です。</p>	49
摺動部 	<p>例えば、クラッチレバーやアクセルレバーを操作すると、そのレバーの動きに合わせてクラッチ、エンジンなどが作動します。このレバーと作動部をワイヤーなどで接続しています。このワイヤーが「摺動部」です。</p> <p>摺動部の動きが悪くなると、オペレーターの操作が作動部にうまく伝わらず、ミニ耕うん機をうまく操作できなくなります。</p>	30
デフ デフロック 	<p>ミッション内部の構造のこと。</p> <p>旋回レバーを「直進」位置にすると、左右のタイヤに同じ動力が伝わり、直進しやすくなります。この状態がデフロック状態です。</p> <p>旋回レバーを「旋回」位置にすると、デフロックが解除され、左右のタイヤに速度差が生まれ、旋回しやすくなります。</p>	12、42他

用語	解説	参照 ページ
ドレン(ホース) キャブドレン ドレンプラグ 	長期保管時には燃料を耕うん機から抜き取る必要があります。燃料を抜く場所がドレンです。 潤滑油などを交換する場合は、潤滑油のドレン部からオイルを抜き取り、ドレンプラグ(栓)を取り付けてから新しいオイルを補給します。	14、37、 38、39
培土	作物の根元に土を寄せること。	3
ハンチング	エンジン回転が不安定になること。	19
ピストンリング 	エンジンのピストン部に装着されている金属製のリング(輪)です。 ピストンリングは爆発漏れを防ぐ、エンジンシリンダ内の潤滑など、エンジンがスムーズに動くために重要な役割を担っています。	49
火花ギャップ (電極すき間) 	ガソリンエンジンの爆発には、点火が必要です。この点火を起こす部品をプラグと言います。 プラグ先端が電極になっていて、このすき間を火花ギャップと言います。 適切なすき間(火花ギャップ)がないと、火花が飛ばず、エンジンは爆発しません。	46
ほ場	耕うんする畑のこと。	5、27他
リード線	電気部品をつなぐコード(電気配線)のこと。	49
ローターリー 	耕うん作業をする部分のこと。 耕うん軸、耕うん爪、ロータリーカバーなどで構成されます。	4、11、 12他

お問い合わせ先

お住まいの地域の販売会社へお問い合わせください。

ヤンマーアグリジャパン株式会社

本社

〒530-8321 大阪市北区鶴野町1番地9号
梅田ゲートタワー

TEL (06)6376-6345

北海道支社

〒067-0051 北海道江別市工栄町10番地6

TEL (011)381-2300

東北支社

〒984-0011 宮城県仙台市若林区六丁の目西町8番地1
斎喜センタービル 1F

TEL (022)288-8451

関東甲信越支社

〒300-1161 茨城県稲敷郡阿見町よしわら1丁目19番地1

TEL (029)844-9007

中部近畿支社

〒524-0041 滋賀県守山市勝部2丁目3番地9号

TEL (077)582-9300

中四国支社

〒710-0024 岡山県倉敷市亀山622番地

TEL (086)428-5151

九州支社

〒833-0001 福岡県筑後市大字一条535番地2

TEL (0942)53-0333

ヤンマー沖縄株式会社

〒901-2223 沖縄県宜野湾市大山7丁目11番地12号

TEL (098)898-3111

ヤンマーアグリ株式会社

〒702-8515 岡山県岡山市中区江並428番地

お客様相談室
TEL (06)7636-9298

2021年7月1日現在

お客様メモ

購入日	年	月	日
購入店名			



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使いかたを
すると、事故を引き起こすおそれがあります。お読みになった後も必ず製品の近くに保存してください。

ヤンマーアグリ株式会社

yanmar.com

0A211-JA0541
2024.01-0
Japanese